

工事起工 概要書

部 長	次 長	課 長	課長補佐	係 長	係 員	審 査 員	設 計 者			
執行年度		平成 29 年度								
工事番号 工事名		28・29合併国補・第29-01-204-2-011号 表橋 橋梁補修工事 起工 設計書								
工事場所 又は履行場所		石岡市 宇治会								
施工方法		請負			原契約年月日		年 月 日			
工期又は 履行期間		平成 年 月 日 から平成 30年 3月15日 まで 日間								
受注者										
費 目		起 工		第1回変更		増 減 (△)				
起 工 額								変更請負に付する工事価格 =変更積算工事価格×請負比率		
請負(委託) に付する額								請負比率: $\frac{\text{起工(前回変更)時の請負決定額}}{\text{起工(前回変更)時の積算額}}$		
工事(業務) 価 格								(小数第7位切り捨て6位止め)		
測量試験費 又は工事雑費								変更積算工事価格 - 円		
消費税相当額								請負比率 -		
請負(委託) 決 定 額								変更工事価格 - 円		
工 事 概 要										
内 容		規格1	数量1	単位1	規格2	数量2	単位2	規格3	数量3	単位3
橋梁修繕工事		L =	22.9	m	A =		m ²			
伸縮装置取替工		L = 11.0 m								
塗装塗替工		A = 140.0 m ²								
橋梁防水工		A = 110.0 m ²								
舗装工		A = 110.0 m ²								
変更理由										

位置図



橋梁補修工事特記仕様書

第1章 総則

- 1 この特記仕様書は石岡市都市建設部道路建設課共通仕様書（以下「共通仕様書」という。）に規定する特記仕様書で、平成29年度 橋梁修繕工事に適用する。
- 2 当該工事の施工にあたっての一般的事項は、「茨城県土木部・企業局土木工事共通仕様書」によるもののほか、「土木工事特記仕様書」によるものとする。

第2章 現場代理人及び主任技術者

- 1 配置技術者は建設業法第26条第1項の規定によらなければならない。また、他の工事との兼務することができるがその工事の請負額3500万円以上の場合には発注者と協議するものとする。
- 2 現場代理人は工事現場に常駐しなければならない。

第3章 施工計画書

- 1 受注者は、工事を実施するにあたって共通仕様書に定める施工計画書を提出しなければならない。また、現場組織表を変更する場合は、速やかに提出しなければならない。
- 2 受注者は、施工計画書に基づき工事を実施する場合は、作業日、工程、箇所及び数量等について予め監督職員と協議するものとする。

第4章 施工図作成

- 1 本工事は、補修数量を概算で算出しているため、受注者は、足場等の設置後、損傷状況を詳細に調査し、設計図書中の図面を参考に施工図及び施工数量表を作成し、監督職員の承諾を得なければならない。
なお、調査及び施工図作成、施工数量表の作成手間は技術管理費に計上している。

第5章 防水工

- 1 本工事に使用する防水層は塗布系防水層とし、品質基準等については「道路橋鉄筋コンクリート床版防水層設計・施工資料((社)日本道路協会)」によるものとする。
- 2 施工位置及び流末処理については、監督職員と協議し施工するものとする。

第6章 構造物補修工

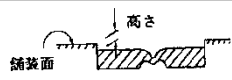
- 1 ひび割れ注入工法は「低圧注入工法」とし、ひび割れの深奥部まで完璧に注入できるものとする。
- 2 受注者は、低圧注入の施工方法について、工事着手前に監督職員の承諾を得るものとする。
- 3 材料の使用に先立ち、試験成績表を監督職員に提出し、監督職員の承諾を得るものとする。

第7章 断面修復工

- 1 断面修復の実施に当たっては、劣化損傷部のコンクリートのはつり、はつり面の処理、鋼材の防錆処理を行うものとする。
- 2 はつりに当たっては、はくり、ひびわれ、豆板等が生じている部分や塩分を多量に含んでいる部分をできる限り撤去するものとするが、その際、健全な部分に損傷を与えないようにすること。
また、はつり部分が多くなり、構造物の耐荷力に影響を与える可能性がある場合は、はつりの順序について監督職員と協議すること。
- 3 はつりの範囲等について疑義がある場合は、監督職員と協議すること。
- 4 材料の使用に先立ち、試験成績表を監督職員に提出し、監督職員の承諾を得るものとする。

第8章 伸縮装置取替工

- 1 受注者は、既設伸縮継手材の撤去にあたって、他の部分に損傷を与えないように行わなければならない。
- 2 施工前に事前に遊間量が適正であるか調査し、その結果を監督職員に提出しなければならない。
- 3 伸縮継手の路面部の高さは、前後の舗装面と同一にするよう性格に合わせなければならない。
- 4 伸縮継手部材間の継ぎ目の接着は、漏水しないように施工しなければならない。
- 5 後打ち材は、伸縮継手の周りに充填するとともに、舗装との境に段差を生じさせないようにしなければならない。
- 6 後打ちコンクリートは、「土木材料共通仕様書」に定めているものを使用する。
据付の精度は、次表によらなければならない。

項 目	許 容 誤 差	適 用
高 さ	舗装面より 0 ~ - 2 mm	
据 付 け 状 態	—	・ねじれ及び歪の有無 ・補強鉄筋とアンカーとの配置状態の良否

第9章 舗装打換え工

- 1 受注者は、路面切削前に、縦横断測量を行い、舗装計画図面を作成し、監督職員の承諾を得なければならない。なお、これによりがたい場合は監督職員と協議しなければならない。
- 2 受注者は、施工中、既設舗装の撤去によって周辺の舗装や構造物に影響を及ぼす懸念が持たれた場合や、計画撤去層より下層に不良部分が発見された場合には、その処置方法について速やかに監督職員と協議しなければならない。
- 2 舗装材料は、「土木材料共通仕様書」に定められているものを使用する。ただし、他の材料を使用する必要があるときは、監督職員の承諾を得なければならない。
- 3 材料がこれまでの実績から品質規定を満足することが明らかなきときは、監督職員に品質証明書を提出することにより品質試験を省略することができる。
- 4 工事中材料の採取地、製造所等の変更を行うときは、変更前に監督職員に報告しなければならない。
- 5 作業中に雨、雪等が降り始めたとき、気温が 5℃ 以下となったとき、その他施工上悪影響が生じることが認められるときは、作業を中止しなければならない。
- 6 散布した瀝青材が高架下に流下しないよう配慮しなければならない。
- 7 工事完了後、舗装工事記録表を作成し監督職員に提出しなければならない。

第10章 廃棄物及び建設副産物

- 1 受注者は、本工事の施工に伴い発生した産業廃棄物及び一般廃棄物は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適正に処理しなければならない。
- 2 共通仕様書建設副産物の規定における提出にあたっては、事前に監督職員の確認を受けるものとする。

第11章 施工管理等

- 1 当該工事の施工管理は、「茨城県土木工事施工管理基準」によるものとする。
- 2 当該工事の写真管理は、「写真管理基準」によるものとする。
- 3 当該工事の出来形図面等は、紙媒体と電子媒体を提出するものとする。なお、電子媒体については原則CD-Rとし、s f c型式で提出するものとする。その他については、監督員と協議のうえ決定するものとする。

第12章 工事中の安全確保

- 1 受注者は工事の施工にあたっては周辺の地形・地質・交通状況等に応じ、十分な安全確保に努めなければならない。
- 2 工事期間中、特に夜間においては道路灯、バリケード等を設置し、十分な安全確保を行わなければならない。
- 3 工事の施工に際し、地下埋設物件等が予想される場合には、その管理者と立会いのうえ、当該物件の位置、深さ等を確認し、保安対策について十分打合せを行い、事故の発生を防止しなければならない。
- 4 受注者の責により第三者等に損害を与えた場合には、速やかに監督員等に報告するとともに、関係機関に連絡した上で応急措置を講じ、受注者の負担により補修しなければならない。
- 5 交通規制を伴う工事を実施する場合には、原則として交通整理員・誘導員を配置するものとし、資格者又は経験1年以上のものとする。ただし、交通量が少ない場合は監督員等との協議の上、信号による規制等に帰ることができる。
- 6 足場、支保工及び仮設工について、詳細に検討し計画するものとする。

第13章 コンクリート構造物の品質確保

当該工事に使用するコンクリート（無筋及び鉄筋）は、設計図書に明示されている場合及び監督員が指示するとおりとする

第14章 鋼材構造物の品質及び検査

当該工事に使用する鋼材構造物（防護柵、水抜きパイプ、排水管）の材料検査については、共通仕様書「品質管理基準及び規格値」を遵守するものとする。ただし、製作及び施工の過程において、材料の品質や安全確保等に著しく影響があると発注者が判断した場合は、検査等について監督員と協議により決定するものとする。

第15章 工事材料全般

設計図書に示されている工事材料は、積算にあたり設定したものであり、製造メーカーを指定するものではないものとする。工事施工にあたっては、同等以上の規格・性能を有する材料を選定し、その材料の仕様を施工計画書に記載しなければならない。

第16章 橋梁足場等設備工

当該工事において足場設備工の施工にあたっては、共通仕様書を遵守すること。

第17章 排出ガス対策型建設機械の指定について

本工事において、以下に示す建設機械を使用する場合は、「排出ガス対策型建設機械指定要領（平成3年10月8日付建設省経機発第249号）」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成7年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、またはこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、あるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着することで、排出ガス対策型建設機械と同等とみなす。ただし、これにより難しい場合は、監督員と協議するものとする。

排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において、使用する建設機械の写真撮影を行い、監督員に提出するものとする。

排出ガス対策型建設機械を原則使用とする機種

機 種	備 考
一般工事用建設機械 ・バックホー ・ブルドーザー ・発動発電機（可搬式） ・空気圧縮機（可搬式） ・油圧ユニット （以下に示す基礎工事用機械のうち、ベースマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの 油圧ハンマ、バイプロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入引抜機、リバースサーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、前回転オールケーシング掘削機） ・ロードローラー、タイヤローラー、振動ローラー ・ホイールクレーン	*ディーゼルエンジン(エンジン出力7.5kw以上260kw以下)を搭載した建設機械に限る。

第18章 守秘義務

受注者は、業務の遂行上知り得た内容については第三者に漏らしてはならない。また、その雇用する職員についても同様とする。

第19章 異議の申立等

特記仕様書・設計図書等について疑義があるときは、関係職員に説明を求めることができるが、不明を理由として異議を申し立てることはできない。

工事数量総括（内訳）表

第 29-01-204-2-011 号

実施 起工 設計書

工事区分	工種	種別	数量	単位	金額	細別内訳
橋梁保全工事			1	式		
橋梁補修工			1	式		
ひび割れ補修工			1	式		低圧注入工法 1.000 橋
断面修復工			1	式		左官工法 1.000 橋
現場塗装工			1	式		
橋梁塗装工			1	式		素地調整 140.000 m2 下塗 420.000 m2 中塗 140.000 m2 上塗 140.000 m2
橋梁付属物工			1	式		
伸縮継手工			1	式		鋼・ゴム製伸縮装置補修 11.000 m
防護柵工			1	式		
路側防護柵工			1	式		ガードレール 55.000 m
河川維持			1	式		
構造物補修工			1	式		
欠損部補修工			1	式		欠損部取壊し 0.100 m3 欠損部補修 0.100 m3
道路修繕			1	式		
舗装工			1	式		
舗装打換え工			1	式		舗装版破碎 110.000 m2 殻運搬 5.000 m3 表層 110.000 m2
道路修繕			1	式		

工事数量総括（内訳）表

第 29-01-204-2-011 号

実施 起工 設計書

工事区分	工種	種別	数量	単位	金額	細別内訳
橋梁足場等設置工			1	式		
橋梁足場工			1	式		塗装足場 108.000 m2
橋梁付属物工			1	式		
地覆工			1	式		足場・防護 28.000 m2
共通仮設			1	式		
共通仮設費			1	式		
安全費			1	式		安全管理員 24.000 人日
直接工事費計			1	式		
共通仮設費（率計上）			1	式		
共通仮設費計			1	式		
純工事費			1	式		
現場管理費			1	式		
工事原価			1	式		
一般管理費等			1	式		
契約保証費用			1	式		
工事価格			1	式		
消費税相当額			1	式		
請負工事費			1	式		

本工事費内訳書

第 29-01-204-2-011 号

実施 起工 設計書

工事区分	工種	種別	細別	規格	数量	単位	単価	金額	摘要
橋梁保全工事									
橋梁補修工									
ひび割れ補修工									
低圧注入工法					1.000	橋			
ひび割れ補修工(低圧注入工法) 1橋当りの延べ施工量(実数入力)(0.8m), 1橋当りの注入材使用量(実数入力)(0.1kg), 1橋当りのシーリング材使用量(実数入力)(0.2kg), 1橋当りの低圧注入器具使用量(実5個)					1.000	橋			第0001号代価表
断面修復工									
左官工法					1.000	橋			
断面修復工(左官工法) 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無(無), 1橋当りの延べ施工量(実数入力)(0.01m3)					1.000	橋			第0002号代価表
現場塗装工									
橋梁塗装工									
素地調整					140.000	m2			
塗替塗装 作業区分(素地調整), 構造物別の補正係数(無), 施工規模加算率(500m2未満), 時間的制約を受ける場合の補正(無), 夜間作業補正(無), 素地調整区分又は塗料区分(3種ケレンC(動力工具、手工具の併用))					140.000	m2			第0003号代価表
下塗					420.000	m2			

本工事費内訳書

第 29-01-204-2-011 号

実施 起工 設計書

工事区分 工種 種別 細別 規格	数量	単位	単価	金額	摘要
塗替塗装(一層目) 作業区分(下塗り), 構造物別の補正係数(無), 施工規模加算率(500m2未満), 時間的制約を受ける場合の補正(無), 夜間作業補正(無), 素地調整区分又は塗料区分(弱溶剤形変性エポキシ はけ・ローラー)		m2			第0004号代価表
	140.000				
塗替塗装(二層目) 作業区分(下塗り), 構造物別の補正係数(無), 施工規模加算率(500m2未満), 時間的制約を受ける場合の補正(無), 夜間作業補正(無), 素地調整区分又は塗料区分(弱溶剤形変性エポキシ はけ・ローラー)		m2			第0004号代価表
	140.000				
塗替塗装(三層目) 作業区分(下塗り), 構造物別の補正係数(無), 施工規模加算率(500m2未満), 時間的制約を受ける場合の補正(無), 夜間作業補正(無), 素地調整区分又は塗料区分(弱溶剤形変性エポキシ はけ・ローラー)		m2			第0004号代価表
	140.000				
中塗		m2			
	140.000				
塗替塗装 作業区分(中塗り), 構造物別の補正係数(無), 施工規模加算率(500m2未満), 時間的制約を受ける場合の補正(無), 夜間作業補正(無), 素地調整区分又は塗料区分(弱溶剤形ふっ素樹脂 はけ・ローラー), 色彩(濃彩)		m2			第0005号代価表
	140.000				
上塗		m2			
	140.000				
塗替塗装 作業区分(上塗り), 構造物別の補正係数(無), 施工規模加算率(500m2未満), 時間的制約を受ける場合の補正(無), 夜間作業補正(無), 素地調整区分又は塗料区分(弱溶剤形ふっ素樹脂 はけ・ローラー), 色彩(赤系)		m2			第0006号代価表
	140.000				
橋梁附属物工					
伸縮継手工					
鋼・ゴム製伸縮装置補修		m			
	11.000				

本工事費内訳書

第 29-01-204-2-011 号

実施 起工 設計書

工事区分 工種 種別 細別 規格	数量	単位	単価	金額	摘要
橋梁用伸縮継手装置設置工(伸縮量20mm) 工種(補修), 伸縮装置本体型式(普通型), 仕様(2車線相当), 夜間作業補正(無), 伸縮装置本体材料の計上(有)	5.500	m			第0007号代価表
橋梁用伸縮継手装置設置工(伸縮量30mm) 工種(補修), 伸縮装置本体型式(普通型), 仕様(2車線相当), 夜間作業補正(無), 伸縮装置本体材料の計上(有)	5.500	m			第0008号代価表
地覆端部材等	1.000	式			第0009号代価表
防護柵工					
路側防護柵工					
ガードレール	55.000	m			第0010号代価表
部材撤去(レール撤去) 規格・仕様(路側用A・B・C種(旧Ap・Bp・Cp種)), 夜間作業の補正(無), 時間的制約を受ける場合の補正(無)	55.000	m			第0011号代価表
部材設置(レール設置) 材料費区分(手間+材料費), 規格・仕様(路側用A・B・C種), 夜間作業の補正(無), 時間的制約を受ける場合の補正(無), 曲線部補正(無)	55.000	m			第0011号代価表
河川維持					
構造物補修工					
欠損部補修工					
欠損部取壊し	0.100	m3			施工P 第0012号代価表
コンクリートはつり 平均はつり厚(3cmを超え6cm以下), 費用の内訳(全ての費用)	0.100	m2			施工P 第0012号代価表

本工事費内訳書

第 29-01-204-2-011 号

実施 起工 設計書

工事区分 工種 種別 細別 規格	数量	単位	単価	金額	摘要
殻運搬 殻発生作業(Co(無筋・鉄筋) 構造物とりこ わし), 積込工法区分(人力積込), DID区間の 有無(無し), 運搬距離 (km) (DID区間無) (11.0km以下), 費用の内訳(全ての費用)	0.100	m3			施工P 第0013号代価表
コンクリート廃材処理費(中間処 理施設) コンクリート塊(無筋) 30cm以下	0.100	t			
欠損部補修	0.100	m3			
型枠 型枠の種類(一般型枠), 構造物の種類(鉄筋 ・無筋構造物)	0.100	m2			施工P 第0014号代価表
コンクリート 構造物種別(無筋・鉄筋構造物), 施工条件(打設量10m3/日未満かつ高2m以下), コンクリート 規格(各種), 養生工の種類(養生無し), 現場 内小運搬の有無(無し), 費用の内訳(全ての 費用)	0.100	m3			施工P 第0015号代価表
道路修繕					
舗装工					
舗装打換え工					
舗装版破碎	110.000	m2			
舗装版破碎 舗装版種別(コンクリート舗装版), 障害等の有無(無し), 騒音振動対策(不要), 舗装版厚(10cm 以下), 積込作業の有無(有り), 費用の内訳(全ての費用)	110.000	m2			施工P 第0016号代価表
殻運搬	5.000	m3			
殻運搬 殻発生作業(Co(無筋・鉄筋) 構造物とりこ わし), 積込工法区分(機械積込), DID区間の 有無(無し), 運搬距離 (km) (DID区間無) (22.5km以下), 費用の内訳(全ての費用)	5.000	m3			施工P 第0017号代価表

本 工 事 費 内 訳 書

第 29-01-204-2-011 号

実施 起工 設計書

工事区分 工種 種別 細別 規格	数量	単位	単 価	金 額	摘 要
コンクリート廃材処理費(中間処理施設) コンクリート塊(無筋) 30cm以下	13.000	t			
表層	110.000	m2			
塗膜系防水 作業区分(補修),床版排水(ドレーン)材の有無(有),床版排水(ドレーン)材数量(実数)(47.28 m/100m2),目地材の有無(無),夜間作業補正(無)	110.000	m2			第0018号代価表
表層(車道・路肩部) 平均幅員(1.4m以上),1層当平均仕上厚 70mm以下(50 mm),材料(密粒度アスファルト混合物(13)),瀝青材料種類(無し),費用の内訳(全ての費用)	110.000	m2			施工P 第0019号代価表
道路修繕					
橋梁足場等設置工					
橋梁足場工					
塗装足場	108.000	m2			
主体足場(ハ イ° 吊足場) 橋梁の種類(プレートガーダ・ボックスガーダ),作業区分(設置・撤去・賃料),供用月数(実数入力)(0.1月)	108.000	m2			第0020号代価表
橋梁附属物工					
地覆工					
足場・防護	28.000	m2			
足場・防護 防護種類(シート),1工事での足場使用回数(1回),足場を架設している総月数(0.5月以下)	28.000	m2			施工P 第0021号代価表
共通仮設					

本 工 事 費 内 訳 書

第 29-01-204-2-011 号

実施 起工 設計書

工事区分 工種 種別 細別 規格	数 量	単 位	単 価	金 額	摘 要
共通仮設費					
安全費					
安全管理員	24.000	人日			
交通誘導警備員B 作業区分(昼間勤務(交替要員無し))	24.000	人日			第0022号代価表
直接工事費計					
共通仮設費(率計上)					
共通仮設費計					
純工事費					
現場管理費					
工事原価					
一般管理費等					
契約保証費用					
工事価格					
消費税相当額					
請負工事費					

第 0001 号 代価表 ひび割れ補修工(低圧注入工法)

第 29-01-204-2-011号

1.000 橋 当り

名称	数量	単位	単価	金額	摘要
世話役		人			
特殊作業員		人			
普通作業員		人			
注入材	0.100	k g			
シール材	0.200	k g			
材料費 注入器	5.000	個			
諸雑費 (率+まるめ)	1.000	式			
合計					
			単位当り		

	条件名称	入力値	入力名称
J 0 1	1 橋当りの延べ施工量 (実数入力)	0.8	0.8 m
J 0 2	1 橋当りの注入材使用量 (実数入力)	0.1	0.1 kg
J 0 3	1 橋当りのシール材使用量 (実数入力)	0.2	0.2 kg
J 0 4	1 橋当りの低圧注入器具使用量 (実)	5	5 個

第 0002 号 代価表 断面修復工(左官工法)

第 29-01-204-2-011号

1.000 橋 当り

名称	数量	単位	単価	金額	摘要
世話役		人			
特殊作業員		人			
普通作業員		人			
材料費 モルタル	0.012	m ³			
諸雑費 (率+まるめ)	1.000	式			
合計					
			単位当り		

	条件名称	入力値	入力名称
J 0 1	鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無	2	無
J 0 2	1 橋当りの延べ施工量 (実数入力)	0.01	0.01 m ³

第 0003 号 代価表 塗替塗装

第 29-01-204-2-011号

100.000

m2 当り

名称	数量	単位	単価	金額	摘要
橋梁塗装工 塗替塗装 素地調整 3種ケレンC (動力工具と手工具の併用)	100.000	m 2			
合計					
			単位当り		

条件名称	入力値	入力名称
J 0 1 作業区分	2	素地調整
J 0 2 構造物別の補正係数	1	無
J 0 3 施工規模加算率	3	500m2未満
J 0 4 時間的制約を受ける場合の補正	1	無
J 0 5 夜間作業補正	1	無
J 0 6 素地調整区分又は塗料区分	5	3種ケレンC (動力工具、手工具の併用)

第 0004 号 代価表 塗替塗装

第 29-01-204-2-011 号

100.000

m2 当り

名称	数量	単位	単価	金額	摘要
橋梁塗装工 塗替塗装 下塗り 弱溶剤形変性エポキシ樹脂はけ・ローラー	100.000	m ²			
合計					
			単位当り		

条件名称	入力値	入力名称
J 0 1 作業区分	3	下塗り
J 0 2 構造物別の補正係数	1	無
J 0 3 施工規模加算率	3	500m ² 未満
J 0 4 時間的制約を受ける場合の補正	1	無
J 0 5 夜間作業補正	1	無
J 0 6 素地調整区分又は塗料区分	12	弱溶剤形変性エポキシ はけ・ローラー

第 0005 号 代価表 塗替塗装

第 29-01-204-2-011号

100.000

m2 当り

名称	数量	単位	単価	金額	摘要
橋梁塗装工 塗替塗装 中塗り 弱溶剤形ふっ素樹脂はけ・ローラー 濃	100.000	m 2			
合計					
			単位当り		

条件名称	入力値	入力名称
J 0 1 作業区分	4	中塗り
J 0 2 構造物別の補正係数	1	無
J 0 3 施工規模加算率	3	500m2未満
J 0 4 時間的制約を受ける場合の補正	1	無
J 0 5 夜間作業補正	1	無
J 0 6 素地調整区分又は塗料区分	16	弱溶剤形ふっ素樹脂 はけ・ローラ ー
J 0 7 色彩	3	濃彩

第 0006 号 代価表 塗替塗装

第 29-01-204-2-011号

100.000

m2 当り

名称	数量	単位	単価	金額	摘要
橋梁塗装工 塗替塗装 上塗り 弱溶剤形ふっ素樹脂はけ・ローラー 赤	100.000	m ²			
合計					
			単位当り		
条件名称		入力値		入力名称	
J 0 1 作業区分		5		上塗り	
J 0 2 構造物別の補正係数		1		無	
J 0 3 施工規模加算率		3		500m ² 未満	
J 0 4 時間的制約を受ける場合の補正		1		無	
J 0 5 夜間作業補正		1		無	
J 0 6 素地調整区分又は塗料区分		16		弱溶剤形ふっ素樹脂 はけ・ローラ ー	
J 0 7 色彩		1		赤系	

第 0007 号 代価表 橋梁用伸縮継手装置設置工

第 29-01-204-2-011号

1.000 m 当り

名称	数量	単位	単価	金額	摘要
橋梁用伸縮装置 ST-20N	1.000	m			
伸縮装置工 補修 2車線 普通型	1.000	m			
合計					
			単位当り		

条件名称	入力値	入力名称
J 0 1 工種	2	補修
J 0 2 伸縮装置本体型式	2	普通型
J 0 3 仕様	2	2車線相当
J 0 4 夜間作業補正	2	無
J 0 5 伸縮装置本体材料の計上	1	有

第 0008 号 代価表 橋梁用伸縮継手装置設置工

第 29-01-204-2-011号

1.000 m 当り

名称	数量	単位	単価	金額	摘要
橋梁用伸縮装置 ST-30N	1.000	m			
伸縮装置工 補修 2車線 普通型	1.000	m			
合計					
			単位当り		

条件名称	入力値	入力名称
J 0 1 工種	2	補修
J 0 2 伸縮装置本体型式	2	普通型
J 0 3 仕様	2	2車線相当
J 0 4 夜間作業補正	2	無
J 0 5 伸縮装置本体材料の計上	1	有

第 0010 号 代価表 部材撤去(レール撤去)

第 29-01-204-2-011号

1.000 m 当り

名称	数量	単位	単価	金額	摘要
ガードレール部材撤去工 レール (耐雪型含) 路側用A・B・C 歩車道境界旧ApBpCp	1.000	m			
合計					
			単位当り		

条件名称	入力値	入力名称
J 0 1 規格・仕様	2	路側用A・B・C種 (旧Ap・Bp・Cp種)
J 0 2 夜間作業の補正	1	無
J 0 3 時間的制約を受ける場合の補正	1	無

第 0011 号 代価表 部材設置(レール設置)

第 29-01-204-2-011号

1.000 m 当り

名称	数量	単位	単価	金額	摘要
ガードレール部材設置工 レール (耐雪型含) 路側用 A・B・C種	1.000	m			
ガードレール部材 笠木	1.000	m			
合計					
			単位当り		

条件名称	入力値	入力名称
J 0 1 材料費区分	1	手間+材料費
J 0 2 規格・仕様	1	路側用A・B・C種
J 0 3 夜間作業の補正	1	無
J 0 4 時間的制約を受ける場合の補正	1	無
J 0 5 曲線部補正	1	無

第 0012 号 代価表 コンクリートはつり

施工P(機1.77%, 労95.17%, 材3.06%, 市0.00%)

第 29-01-204-2-011号

1.000 m2 当り

名称	構成比	単位	東京単価	地区単価	摘要
空気圧縮機 [可搬式・エンジン駆動・スクリュ型] 吐出量5.0m ³ /min	1.720	%			K1
特殊作業員	42.060	%			R1
普通作業員	31.020	%			R2
世話役	19.320	%			R3
軽油 1.2号	2.980	%			Z1
			(標準単価 積算単価)	

	条件名称	入力値	入力名称
J01	平均はつり厚	2	3cmを超え6cm以下
J02	費用の内訳	1	全ての費用

第 0013 号 代価表 殻運搬

施工P(機20.89%, 労71.54%, 材7.57%, 市0.00%)

第 29-01-204-2-011号

1.000 m3 当り

名称	構成比	単位	東京単価	地区単価	摘要
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 2 t 積級	20.890	%			K1
運転手 (一般)	71.540	%			R1
軽油 1. 2号	7.570	%			Z1
			(標準単価 積算単価)	

条件名称	入力値	入力名称
J 0 1 殻発生作業	1	Co (無筋・鉄筋) 構造物とりこわし
J 0 2 積込工法区分	2	人力積込
J 0 3 DID区間の有無	1	無し
J 0 6 運搬距離 (km) (DID区間無)	11	11.0km以下
J 1 6 費用の内訳	1	全ての費用

第 0014 号 代価表 型枠

施工P(機0.00%, 労100.00%, 材0.00%, 市0.00%)

第 2 9 - 0 1 - 2 0 4 - 2 - 0 1 1 号

1.000 m2 当り

名称	構成比	単位	東京単価	地区単価	摘要
型枠工	47.680	%			R1
普通作業員	24.730	%			R2
世話役	8.900	%			R3
			(標準単価 積算単価)

条件名称	入力値	入力名称
J 0 1 型枠の種類	1	一般型枠
J 0 2 構造物の種類	1	鉄筋・無筋構造物

第 0015 号 代価表 コンクリート

施工P(機0.00%, 労29.97%, 材70.03%, 市0.00%)

第 2 9 - 0 1 - 2 0 4 - 2 - 0 1 1 号

1.000 m3 当り

名称	構成比	単位	東京単価	地区単価	摘要
普通作業員	12.430	%			R1
特殊作業員	9.000	%			R2
世話役	6.580	%			R3
ポリマーセメントモルタル	70.030	%			Z1
			(標準単価 積算単価)

条件名称	入力値	入力名称
J 0 1 構造物種別	1	無筋・鉄筋構造物
J 0 2 施工条件	2	打設量10m3/日未満かつ高2m以下
J 0 3 コンクリート規格	30	各種
J 0 5 養生工の種類	1	養生無し
J 0 7 現場内小運搬の有無	2	無し
J 1 3 費用の内訳	1	全ての費用

第 0016 号 代価表 舗装版破碎

施工P(機8.85%, 労85.77%, 材5.38%, 市0.00%)

第 29-01-204-2-011号

1.000 m2 当り

名称	構成比	単位	東京単価	地区単価	摘要
バックホウ (クローラ) [標準] 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	8.850	%			K1
普通作業員	40.110	%			R1
世話役	23.180	%			R2
運転手 (特殊)	22.480	%			R3
軽油 1.2号	5.380	%			Z1
			(標準単価 積算単価)

条件名称	入力値	入力名称
J 0 1 舗装版種別	2	コンクリート舗装版
J 0 2 障害等の有無	1	無し
J 0 3 騒音振動対策	1	不要
J 0 4 舗装版厚	3	10cm以下
J 0 6 積込作業の有無	1	有り
J 0 7 費用の内訳	1	全ての費用

第 0017 号 代価表 殻運搬

施工P(機49.71%, 労37.76%, 材12.53%, 市0.00%)

第 29-01-204-2-011号

1.000 m3 当り

名称	構成比	単位	東京単価	地区単価	摘要
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 10t積級	49.710	%			K1
運転手 (一般)	37.760	%			R1
軽油 1.2号	12.530	%			Z1
			(標準単価 積算単価)	

条件名称	入力値	入力名称
J 0 1 殻発生作業	1	Co (無筋・鉄筋) 構造物とりこわし
J 0 2 積込工法区分	1	機械積込
J 0 3 DID区間の有無	1	無し
J 0 4 運搬距離 (km) (DID区間無)	14	22.5km以下
J 1 6 費用の内訳	1	全ての費用

第 0018 号 代価表 塗膜系防水

第 29-01-204-2-011号

100.000 m2 当り

名称	数量	単位	単価	金額	摘要
橋面防水工 塗膜系防水（アスファルト系）補修	100.000	m ²			
床版排水材 ドレーン	49.644	m			
諸雑費（まるめ）	1.000	式			
合計					
			単位当り		

条件名称	入力値	入力名称
J 0 1 作業区分	2	補修
J 0 2 床版排水（ドレーン）材の有無	1	有
J 0 3 床版排水（ドレーン）材数量（実数）	47.28	47.28 m/100m ²
J 0 4 目地材の有無	2	無
J 0 8 夜間作業補正	2	無

第 0019 号 代価表 表層(車道・路肩部)

施工P(機3.48%, 労8.63%, 材87.89%, 市0.00%)

第 29-01-204-2-011号

1.000 m2 当り

名称	構成比	単位	東京単価	地区単価	摘要
ASフィニッシャ [ホイール型] 排出ガス対策型 (第2次) 舗装幅2.4~6.0m	1.990	%			K1
タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第1次)] 運転質量8~20t	0.560	%			K2
ロードローラ [マカダム・排ガス対策型 (第1次)] 運転質量10~12t 締め幅2.1m	0.560	%			K3
普通作業員	3.330	%			R1
特殊作業員	1.900	%			R2
運転手 (特殊)	1.850	%			R3
世話役	0.630	%			R4
アスファルト混合物 密粒度AS混合物 (13)	87.550	%			Z1
軽油 1.2号	0.310	%			Z2
			(標準単価 積算単価))

条件名称	入力値	入力名称
J01 平均幅員	3	1.4m以上
J04 1層当平均仕上厚 70mm以下	50	50 mm
J05 材料	2	密粒度アスファルト混合物 (13)
J06 瀝青材料種類	5	無し
J07 費用の内訳	1	全ての費用

第 0020 号 代価表 主体足場(パイプ吊足場)

第 29-01-204-2-011 号

1.000 m2 当り

名称	数量	単位	単価	金額	摘要
橋梁特殊工		人			
主体足場賃料 パイプ吊足場	0.100	月			
合計					
			単位当り		

条件名称	入力値	入力名称
J 0 1 橋梁の種類	1	プレートガード・ボックスガード
J 0 2 作業区分	1	設置・撤去・賃料
J 0 3 供用月数 (実数入力)	0.1	0.1 月

第 0021 号 代価表 足場・防護

施工P(機0.00%, 労100.00%, 材0.00%, 市0.00%)

第 2 9 - 0 1 - 2 0 4 - 2 - 0 1 1 号

1.000 m2 当り

名称	構成比	単位	東京単価	地区単価	摘要
橋梁特殊工	97.310	%			R1
			(標準単価 積算単価))

条件名称	入力値	入力名称
J 0 1 防護種類	1	シート
J 0 2 1工事での足場使用回数	1	1回
J 0 3 足場を架設している総月数	1	0.5月以下

第 0022 号 代価表 交通誘導警備員B

第 29-01-204-2-011号

1.000 人日 当り

名称	数量	単位	単価	金額	摘要
交通誘導警備員B	1.000	人			
合計					
			単位当り		

J 0 1	条件名称 作業区分	入力値 1	入力名称 昼間勤務（交替要員無し）
-------	--------------	----------	----------------------

7. 数量計算(表橋)

数量総括表							
工種		種別		単位	数量	合計	備考
コンクリート補修	ひびわれ補修工	延べ施工量	w=0.2mm	m	0.80	0.8	
		シーリング材	w=0.2mm	kg	0.15	0.2	
		注入材	w=0.2mm	kg	0.01	0.1	
		注入パイプ	w=0.2mm	本	5	5	
	断面修復工	左官工	プライマー	m ²	0.21	0.21	
		はつりエ・モルタル修復工	m ³	0.004	0.01		
鋼橋塗替え工		塗装塗替え工 (RC-Ⅲ)		m ²	146.20	146.2	
伸縮装置取替工	伸縮装置本体			m	5.52	11.0	A1
				m	5.52		A2
	はつりエ			m ³	0.30	0.6	A1
				m ³	0.30		A2
	超速硬コンクリート			m ³	0.30	0.6	A1
				m ³	0.30		A2
	鉄筋(D16)	SD345		kg	34	68	A1
		SD345		kg	34		A2
	異形差筋アンカー	SD345		本	110	220	A1
		SD345		本	110		A2
	二重止水材			m	5.52	11.0	A1
				m	5.52		A2
	端部排水処理工			箇所	2	4	A1
				箇所	2		A2
地覆端部材			枚	2	4	A1	
			枚	2		A2	
シーリング材			ℓ	1.46	3.2	A1	
			ℓ	1.76		A2	
付属物補修工	防護柵工	防護柵取替え工	笠木レール	m	55.58	55.6	角型鋼管
	排水装置工	排水管塗装塗替え	RC-Ⅲケレン	m ²	0.50	0.5	
	支承工	塗装塗替え工 (RC-Ⅲ)	固定支承	m ²	0.50	1.0	
			可動支承	m ²	0.50		
	左官工(沓座モルタル)	ポリマーセメントモルタル	m ³	0.01	0.1	対策B	
橋面防水工	切削工	舗装切削工		m ²	111.0	111.0	
		殻運搬	コンクリート殻	m ³	5.55	5.6	
		廃棄物処理		t	13.2	13.2	
	舗装工	表層	t=50mm	m ²	111.0	111.0	
	橋面防水工	防水層		m ²	111.0	111.0	
		導水パイプ	φ18	m	52.48	52.5	
仮足場工	TYRE A1		m ²	108.00	108.0		
	TYRE E		m ²	28.80	28.8		

1.コンクリート補修工

(1) ひび割れ補修工

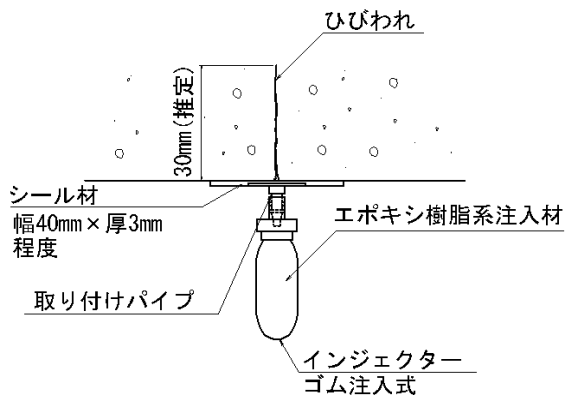
1) 延べ施工量

ひび割れ幅B= 0.2 mm L= 0.80 m (下表より)

・ひび割れ幅0.2mm

施工部位	ひびわれ延長(m)	数量(ヶ所)	合計(m)
床版	0.800	1	0.800
合計		Σ= 1	0.800

2) シール材 (エポキシ樹脂 比重W= 1.6)

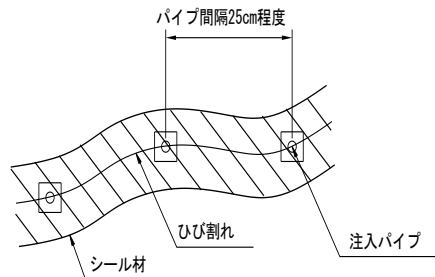


(W = 0.2mm)
 $W = 0.040 \times 0.003 \times 0.800 \times 1.6 \times 1000 = 0.15 \text{ kg}$

3) 注入材 (エポキシ樹脂 比重W= 1.14)

$W = 0.0002 \times 0.030 \times 0.800 \times 1.14 \times 1000 = 0.01 \text{ kg}$

4) 注入パイプ パイプ間隔 0.25 m



$N = (0.800 / 0.25) + 1 = 5 \text{ 個}$

2. 断面修復工

1) 断面修復(左官工)

鉄筋防錆処理：無

施工部位	番号	寸法 (mm)	平面積 (m ²)	深さ (m)	体積 (m ³)
地覆	①	50 × 50	0.0025	× 0.030	0.0001
		50 × 50	0.0025	× 0.030	0.0001
	②	50 × 100	0.0050	× 0.030	0.0002
床版	③	300 × 600	0.1800	× 0.010	0.0018
ウイング	④	100 × 200	0.0200	× 0.100	0.0020
合計	Σ		0.2100		0.0042

2)面積(m²)プライマー

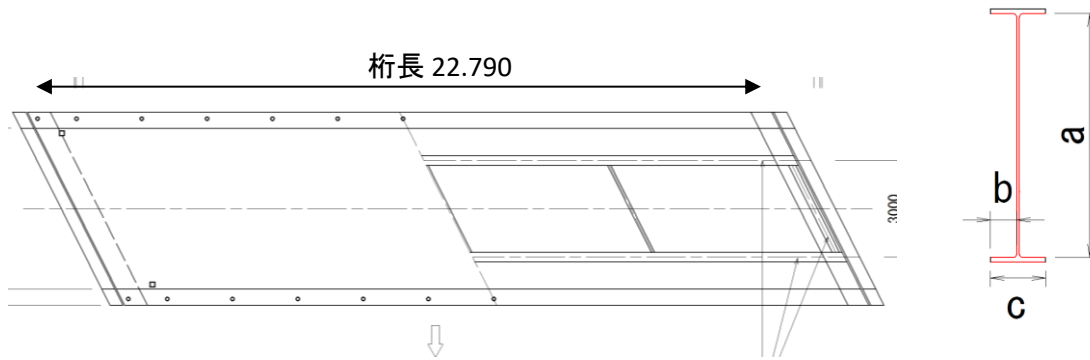
$$A = 0.2100 \text{ m}^2$$

3)体積(m³)はつり工・モルタル修復工

$$V = 0.0042 \text{ m}^3$$

2.鋼橋塗替え工

(1)主桁



1)単体数量

$$L = a \times 2 + b \times 4 + c$$

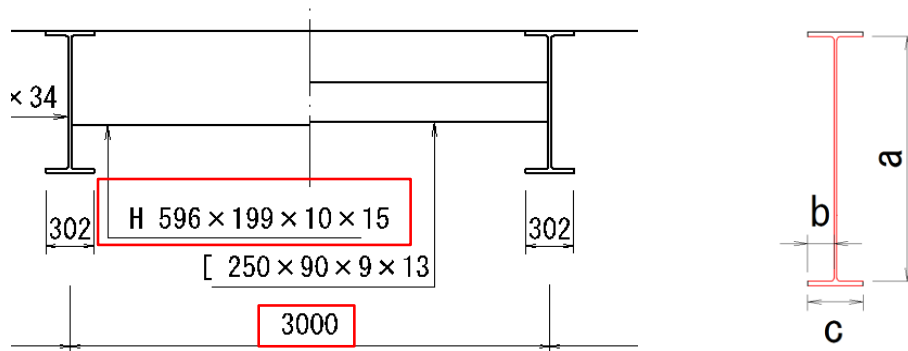
$$L = 0.912 \times 2 + 0.142 \times 4 + 0.302 = 2.694 \text{ m}$$

$$A = 2.694 \times 22.790 = 61.40 \text{ m}^2$$

2)合計

$$\Sigma A = 61.40 \times 2 = 122.8 \text{ m}^2$$

(2)端・分配横桁



$$\text{横桁長} = 3.000 \times 1 / \sin 64^\circ = 3.338 \text{ m}$$

1)単体数量

$$L = a \times 2 + b \times 4 + c$$

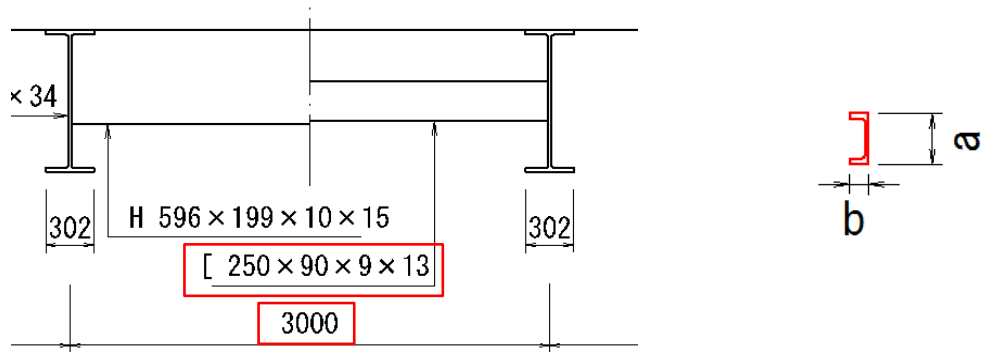
$$L = 0.596 \times 2 + 0.095 \times 4 + 0.199 = 1.771 \text{ m}$$

$$A = 1.771 \times 3.338 = 5.91 \text{ m}^2$$

2)合計

$$\Sigma A = 5.91 \times 3 = 17.7 \text{ m}^2$$

(3)中間横桁



横桁長 = 3.338 m

1)単体数量

$$L = a \times 2 + b \times 4$$

$$L = 0.250 \times 2 + 0.090 \times 4 = 0.860 \text{ m}$$

$$A = 0.860 \times 3.338 = 2.87 \text{ m}^2$$

2)合計

$$\Sigma A = 2.87 \times 2 = 5.7 \text{ m}^2$$

(4)総合計

$$\Sigma A = 122.8 + 17.7 + 5.7 = 146.2 \text{ m}^2$$

3.伸縮装置補修工

(1) A1

- 1) 伸縮装置本体 (伸縮量 20mmタイプ)
L = = 5.517 m
- 2) はつり工
V = (0.272 + 0.272) × 0.100 × 5.517 = 0.300 m³
- 3) 超速硬コンクリート
V = (0.272 + 0.272) × 0.100 × 5.517 = 0.300 m³
- 4) 鉄筋 (D16)
W = 1.56 × 5.517 × 4 = 34.0 kg
- 5) 異形差筋アンカー (D13)
N = 5.517 / 0.200 × 4 = 110 本
- 6) 二重止水材
L = = 5.517 m
- 7) 端部排水処理工
N = = 2 箇所
- 8) 地覆端部材
N = = 2 枚
- 9) シーリング材
L = (0.180 + 0.552) × 2 = 1.464 m
V = 1.464 × 0.020 × 0.050 × 1000 = 1.464 ℓ

(2) A2

- 1) 伸縮装置本体 (伸縮量 30mmタイプ)
L = = 5.517 m
- 2) はつり工
V = (0.267 + 0.267) × 0.100 × 5.517 = 0.295 m³
- 3) 超速硬コンクリート
V = (0.267 + 0.267) × 0.100 × 5.517 = 0.295 m³
- 4) 鉄筋 (D16)
W = 1.56 × 5.517 × 4 = 34.0 kg
- 5) 異形差筋アンカー (D13)
N = 5.517 / 0.200 × 4 = 110 本
- 6) 二重止水材
L = = 5.517 m
- 7) 端部排水処理工
N = = 2 枚
- 8) 地覆端部材
N = = 2 箇所
- 9) シーリング材
L = (0.180 + 0.552) × 2 = 1.464 m
V = 1.464 × 0.020 × 0.060 × 1000 = 1.757 ℓ

4. 付属物補修工

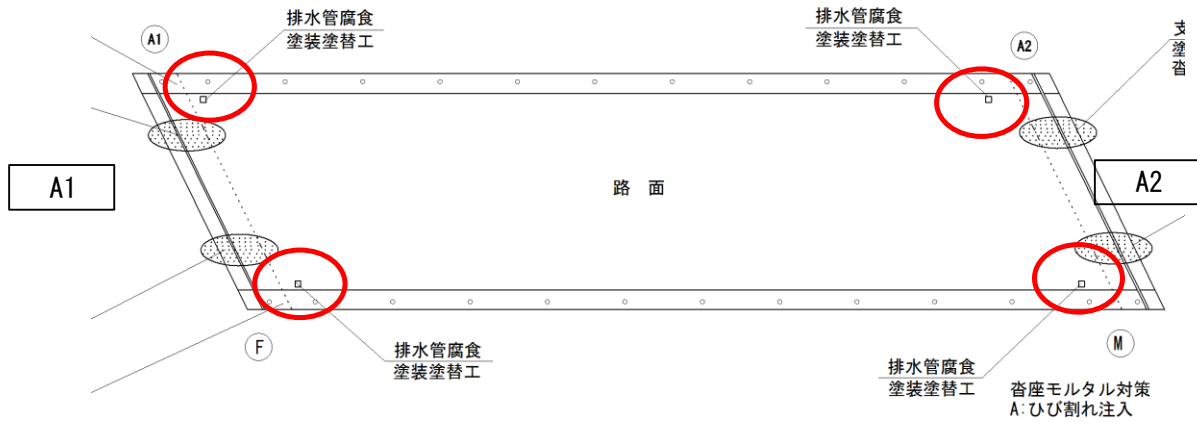
(1) 防護柵補修工

防護柵取替え

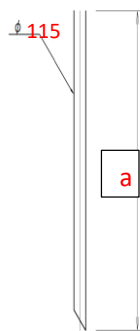
	片側長さ (m)	1橋当り長さ (m)
トップレール(笠木)	27.790	55.58

(2) 排水管交換(塩化ビニール)

排水管位置図



既設排水管



・塗装塗替え(RC-Ⅲ)

$$A = 0.115 \times \pi \times a \times n$$

$$A = 0.115 \times \pi \times 1.140 \times 4 = 1.6 \text{ m}^2$$

(3) 支承塗装工 (RC-Ⅲ)

デザイナーデータブック(社団法人日本橋梁建設協会)により支承高さから塗装面積を求める。

$$t = \text{支承高さ} = 82 \text{ mm}$$

支承塗装面積

・固定支承

$$A = 0.27 \times 2 = 0.5 \text{ m}^2$$

・可動支承

$$A = 0.25 \times 2 = 0.5 \text{ m}^2$$

※デザイナーデータブックより

●線支承(LB)

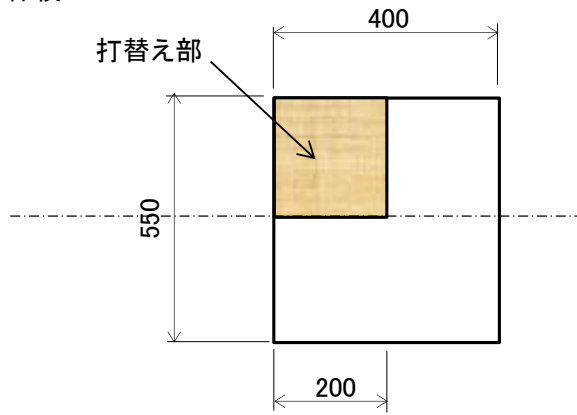
全反力 ton	橋軸方向水平力 ton		橋軸直角 方向地震 時水平力 ton	上揚力 ton	計算 移動量 mm	固 定 可動の 区 別	上部工との取合 寸法 mm			下部工との取合 寸法 mm					支 承 高 さ H mm	支 承 重 量 kg	支 承 塗 装 面 積 m ²	
	移動時	地震時					a	b	c	A	B	C	D	E				J
	移動時	地震時	移動時	地震時	移動時		地震時											
30	6	10.8	5.4	2.25	—	固定	216	140	200	420	240	50	28	300	440	82	52.4	0.27
30	6	5.4	5.4	2.25	20	可動	216	165	200	420	240	50	25	300	400	82	51.8	0.25
40	8	14.4	7.2	3.0	—	固定	216	155	200	420	260	60	32	300	480	87	60.5	0.29
40	8	7.2	7.2	3.0	20	可動	216	180	200	420	260	60	28	300	430	87	59.5	0.26
50	10	18.0	9.0	3.75	—	固定	216	170	200	420	280	75	36	300	560	92	72.4	0.31
50	10	9.0	9.0	3.75	20	可動	216	195	200	420	280	75	32	300	480	92	69.5	0.27
75	15	27.0	13.5	5.63	—	固定	266	220	250	510	340	80	46	370	730	110	132.7	0.46
75	15	13.5	13.5	5.63	20	可動	266	240	250	510	340	80	38	370	595	110	122.4	0.39
100	20	36.0	18.0	7.5	—	固定	316	280	300	610	400	80	55	440	840	125	211.3	0.64
100	20	18.0	18.0	7.5	20	可動	316	290	300	610	400	80	46	440	710	125	194.1	0.53

(4) 支承台座補修工 (沓座モルタル)

左官工法(全沓座部)



1)モルタル体積

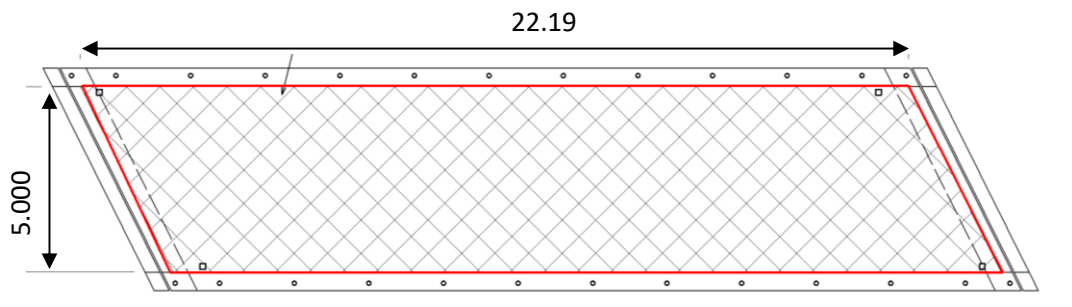


※ 破損の状況から対策Bは
全体の1/4の量を見込む。

t= 30 (mm)

$$\begin{aligned}
 V &= a \times b \times c \\
 V &= 0.275 \times 0.200 \times 0.030 = 0.002 \text{ m}^3 \\
 \Sigma V &= 0.002 \times 4 = 0.008 \text{ m}^3
 \end{aligned}$$

橋面防水工



1. 舗装切削工

(1)既設アスファルト舗装切削工(既設舗装50mm)

$$A = 22.190 \times 5.000 = 111.0 \text{ m}^2$$

(2)殻運搬

・既設アスファルト舗装切削工

$$V = 111.0 \times 0.050 = 5.55 \text{ m}^3$$

(3) 廃棄物処理

・既設コンクリート舗装切削工

$$W = 5.6 \times \begin{matrix} * \\ 2.35 \text{ t/m}^3 \end{matrix} = 13.2 \text{ t}$$

※H24年3年 道路橋示方書・同解説 共通編 P.17

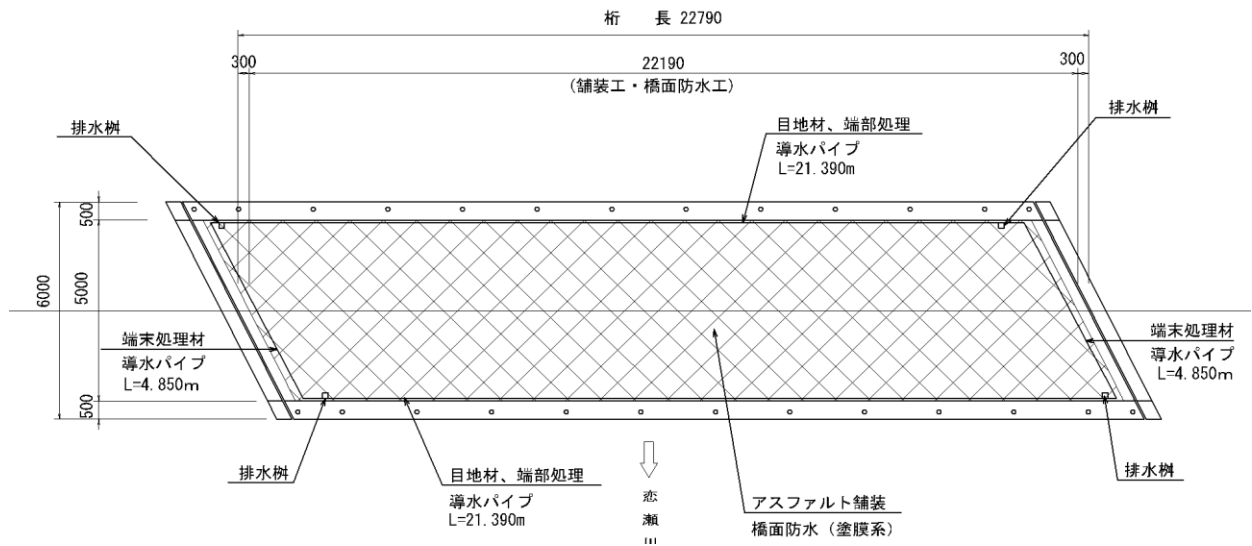
2. 舗装工

(1)橋梁部(表層:密粒度アスコン(13),t=0.05m)

$$A = 22.190 \times 5.000 = 111.0 \text{ m}^2$$

$$V = 111.0 \times 0.050 = 5.55 \text{ m}^3$$

3. 防水工



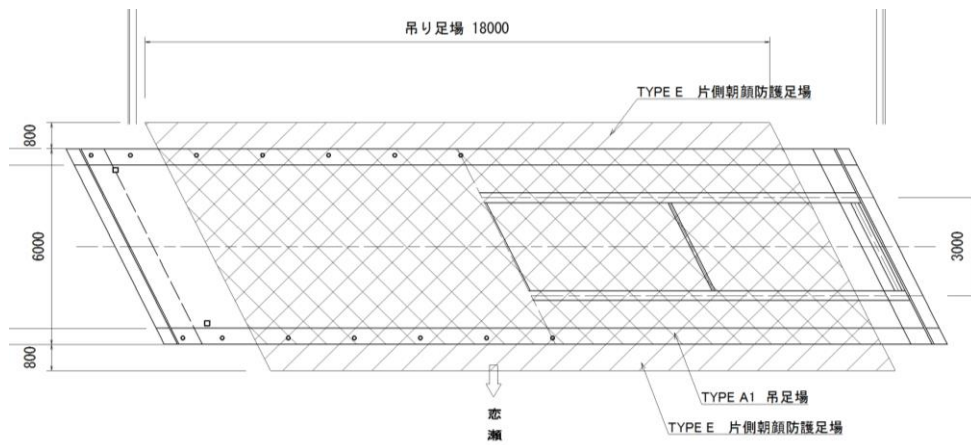
(1) 防水層(塗膜防水)

$$A = 22.190 \times 5.000 = 111.0 \text{ m}^2$$

(2) 導水パイプ(SUSパイプ)

$$L = 21.390 \times 2 + 4.850 \times 2 = 52.48 \text{ m}$$

足場工



1)TYRE A1

$$A = 6.000 \times 18.000 = 108.0 \text{ m}^2$$

2)TYRE E

$$A = 0.800 \times 18.000 \times 2 = 28.8 \text{ m}^2$$

A2

(可動)

適用遊間

測定床版遊間 測定温度 15 °C D = 60 mm

桁の温度伸縮量(全温度変化量)

伸縮けた長 22,790 mm

橋種 鋼橋

線膨張係数 12×10^{-6}

温度変化の範囲 -10 ~ 40 °C (Σ = 50 °C)

余裕量 10 mm 10 mm > 2.5 mm

$\Delta L' \times 0.2$

基本伸縮量

$$\Delta L1' = 22,790 \times 12 \times 10^{-6} \times 50 \text{ °C} \times \sin(65.00 \text{ °}) = 12.4 \text{ mm}$$

設計伸縮量

$$\Delta L1 = \Delta L1' + \text{余裕量} = 12.4 + 10 = 22.4 \text{ mm}$$

床版遊間の変化

外気温	床版遊間	
-10 °C	66.2 mm	理論最大床版遊間
+15 °C	60.0 mm	測定温度
+40 °C	53.8 mm	理論最小床版遊間

車道

ST-30N

最大適用床版遊間 D = 95 mm > 理論最大床版遊間 = 66.2 mm (カタログより) OK

伸縮量 ΔL = 30 mm > 設計伸縮量 ΔL1 = 22.4 mm (カタログより) OK

表橋

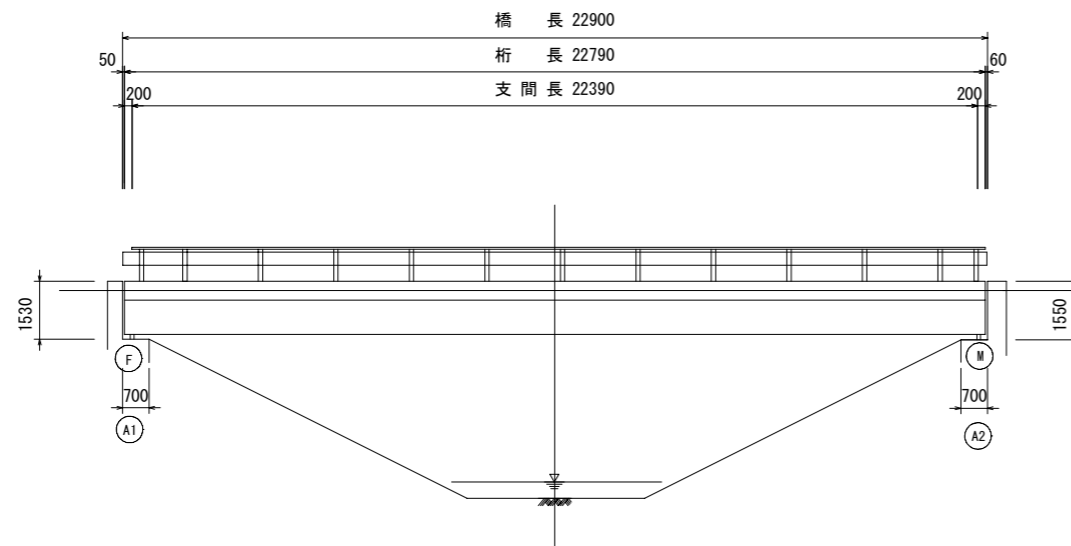
伸縮装置補修数量総括表

I.車道部

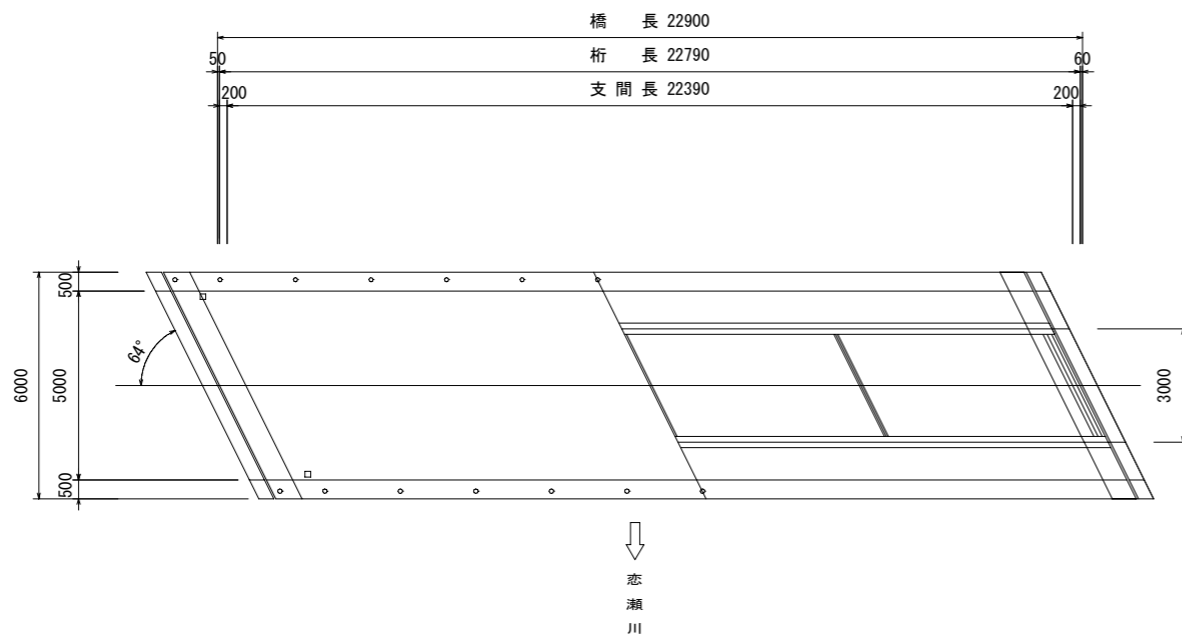
		単位	A1	A2	合計	備考
伸縮装置本体	20mmタイプ	m	5.517	-	5.517	鋼製荷重支持型 ST-20N
	30mmタイプ	m	-	5.517	5.517	鋼製荷重支持型 ST-30N
はつり工		m ³	0.300	0.295	0.595	
超速硬コンクリート		m ³	0.300	0.295	0.595	
鉄筋		kg	34.0	34.0	68.0	D16
異形差筋アンカー		本	110	110	220	D13
二重止水材		m	5.517	5.517	11.034	クローザーS
端部排水処理工		箇所	2	2	4	25A
地覆端部材		箇所	2	2	4	サイドクローザーA
シーリング材		ℓ	1.464	1.757	3.221	

表橋 現況一般図

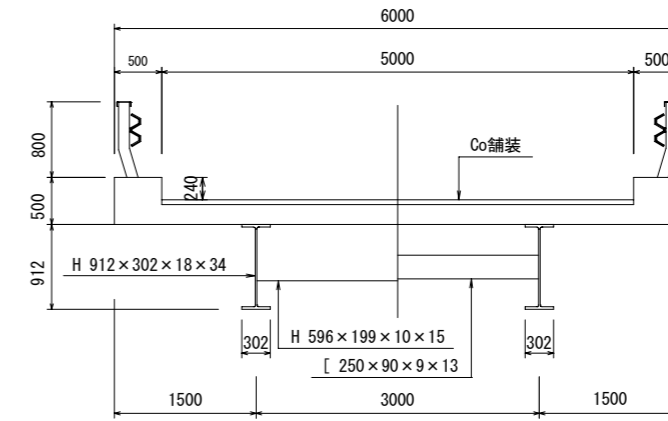
側面図 S=1:100



平面図 S=1:100

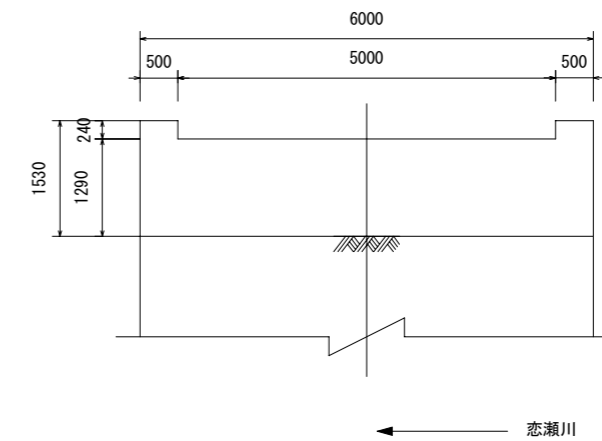


上部工断面図 S=1:40

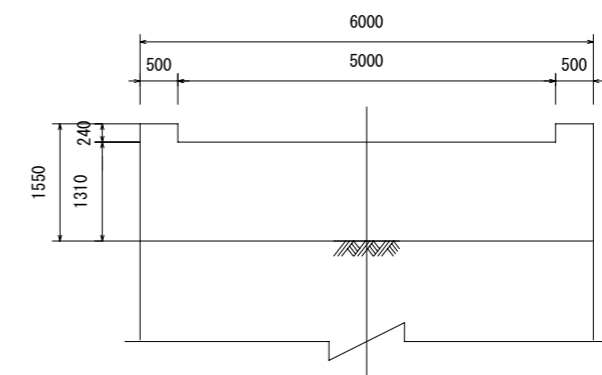


下部工正面図 S=1:50

A1橋台



A2橋台

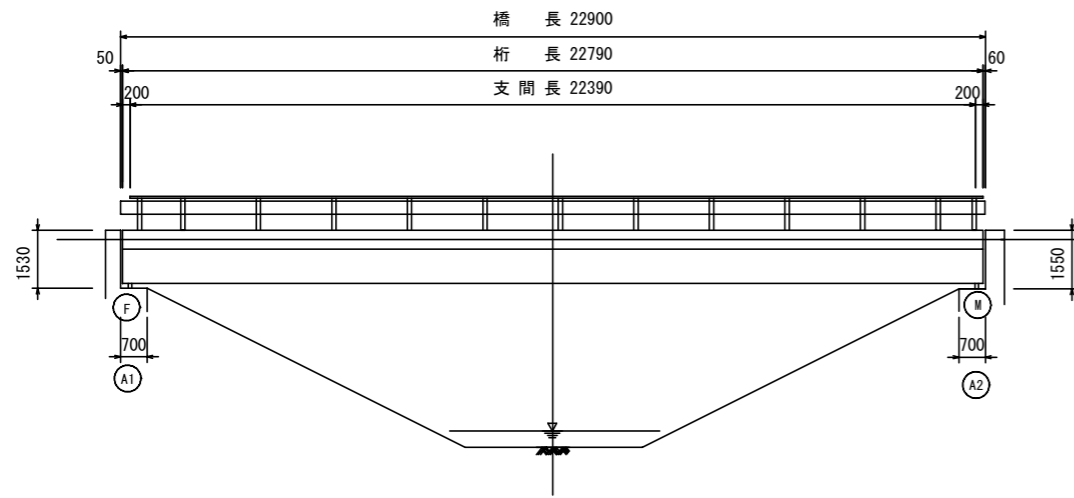


※既存の成果及び計測により作図している。
 一部推定であるため、使用前に調査すること。

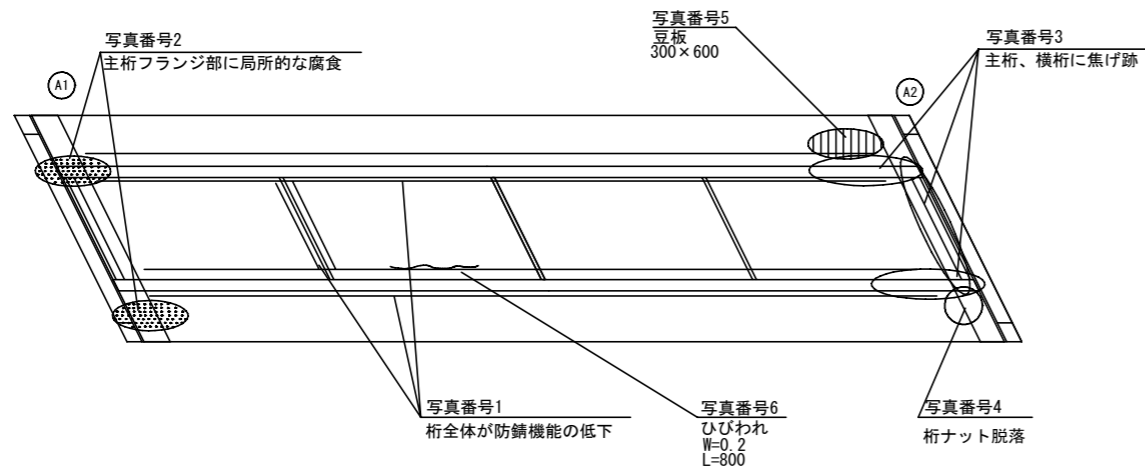
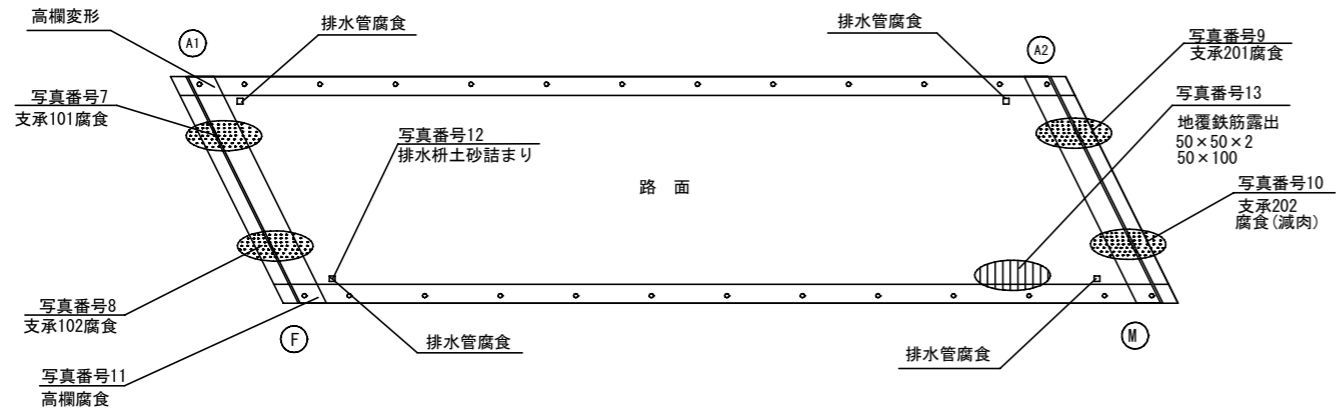
施工年度	平成29年度
工事名	28・29合併国補・表橋 橋梁補修工事
路線名	市道B102号線
工事箇所	大字宇治会字宇治会3094番地先
図面種別	表橋 現況一般図
縮尺	図示
図面番号	全9葉の内1号(1/9)
内容表示	

表橋 損傷図

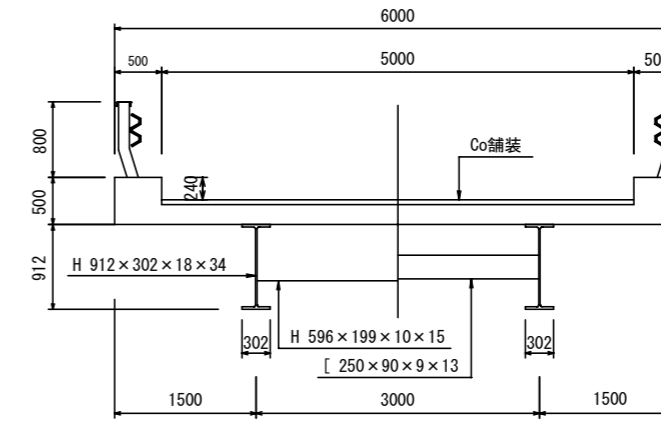
側面図 S=1:100



平面図 S=1:100



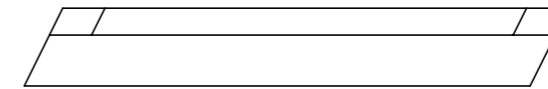
上部工断面図 S=1:40



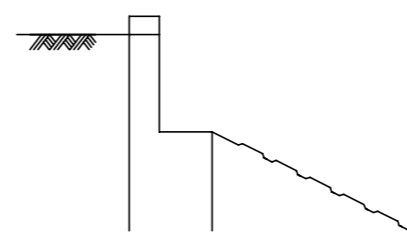
下部工図 S=1:50

A1橋台

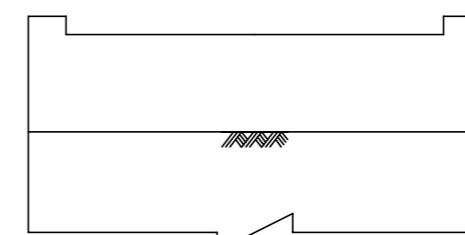
平面図



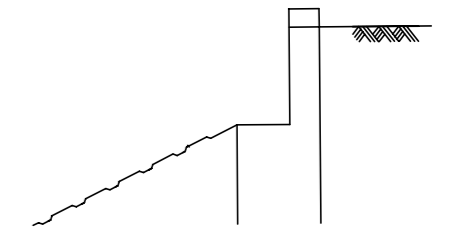
下流側



正面図



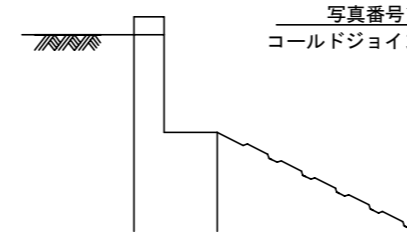
上流側



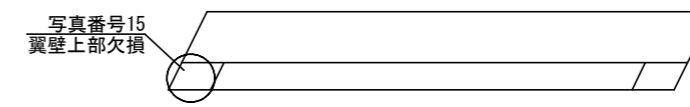
A2橋台

正面図

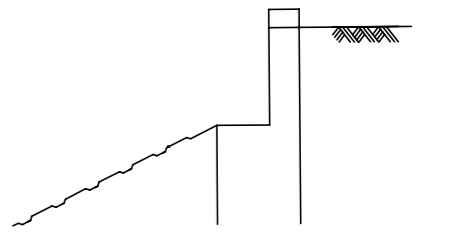
上流側



平面図



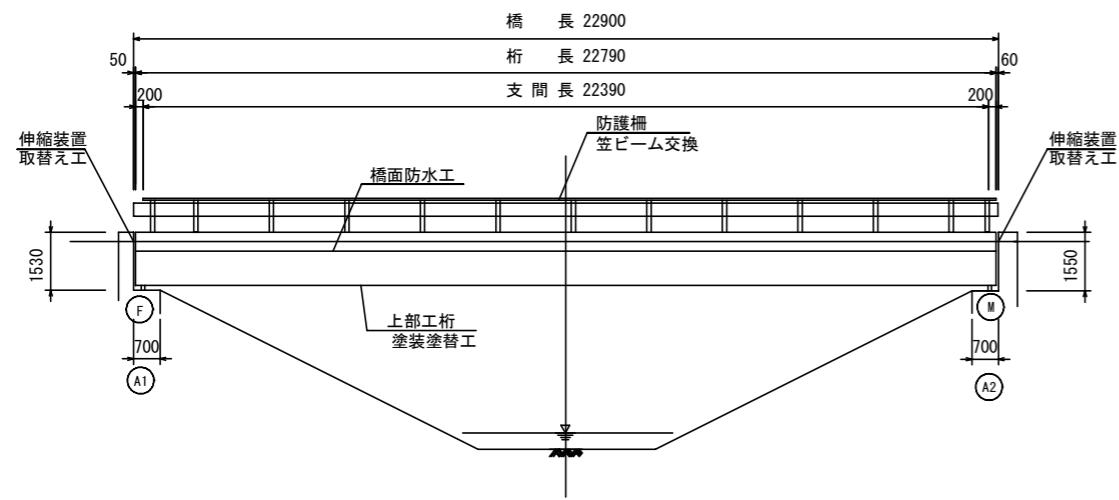
下流側



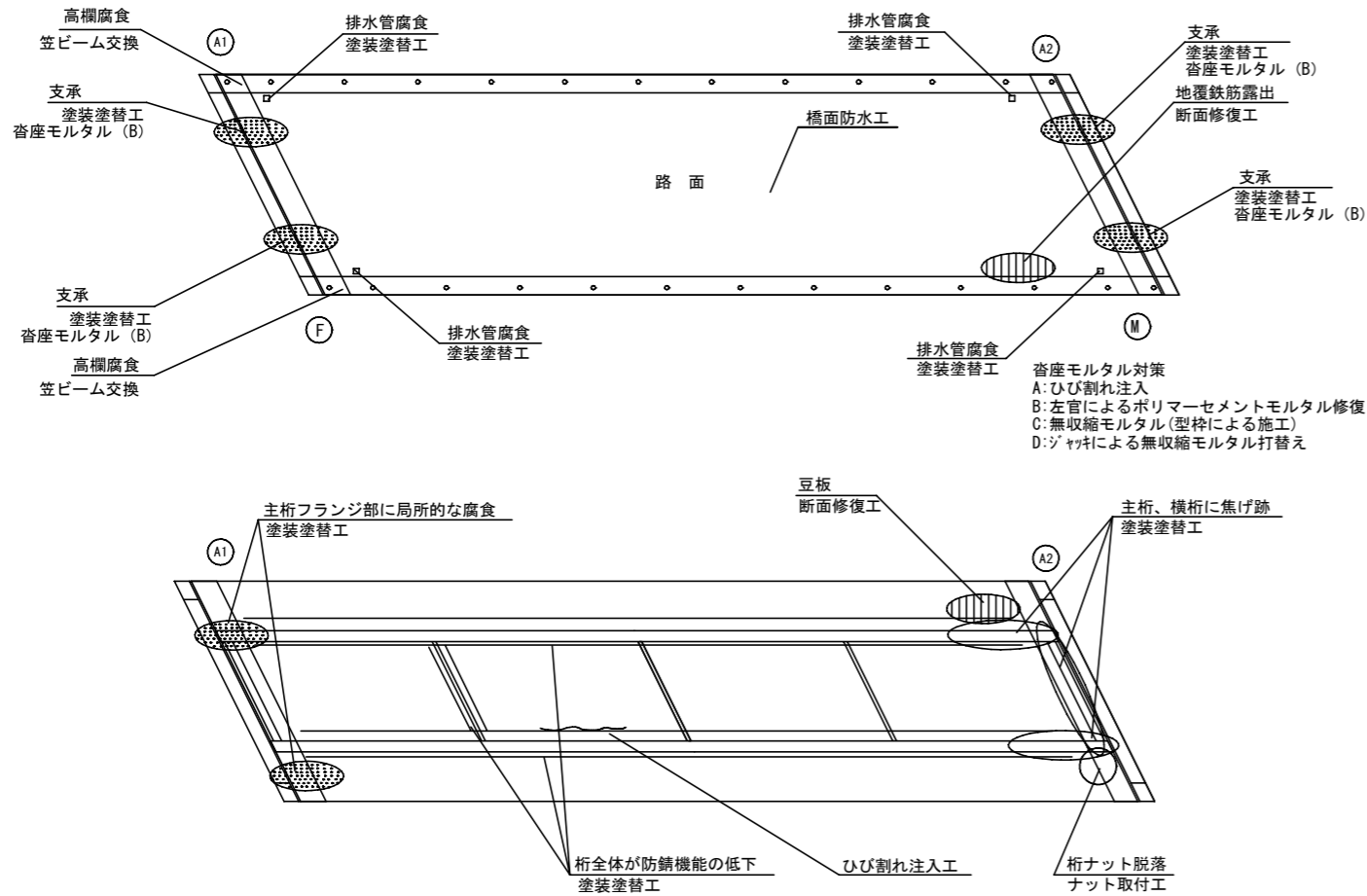
施工年度	平成29年度
工事名	28・29合併国補・表橋 橋梁補修工事
路線名	市道B102号線
工事箇所	大字宇治会字宇治会3094番地先
図面種別	表橋 損傷図
縮尺	図示
図面番号	全9葉の内2号(2/9)
内容表示	

表橋 補修一般図

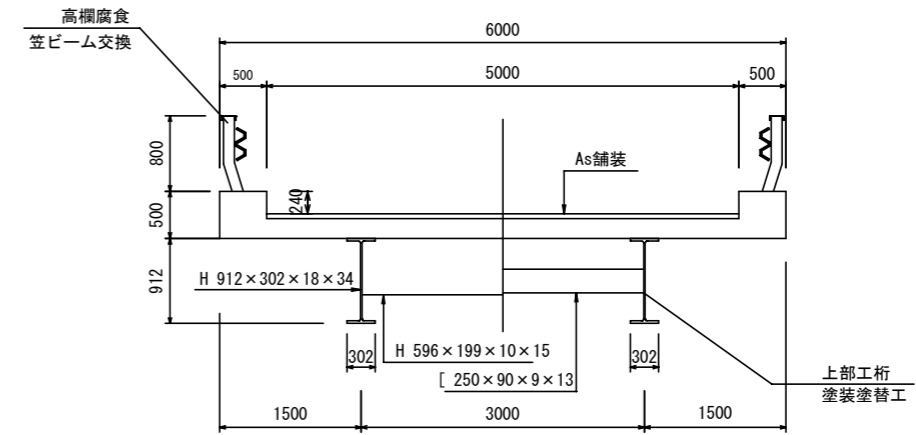
側面図 S=1:100



平面図 S=1:100



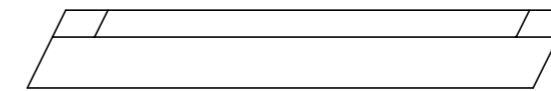
上部工断面図 S=1:40



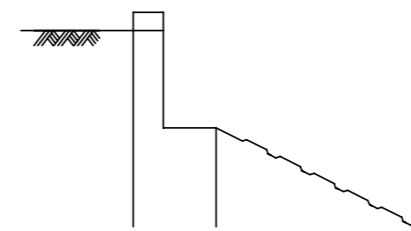
下部工図 S=1:50

A1橋台

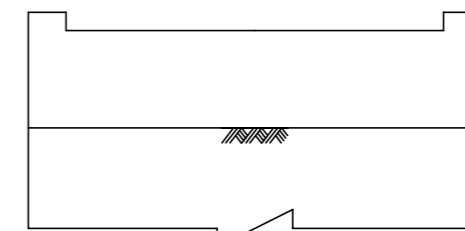
平面図



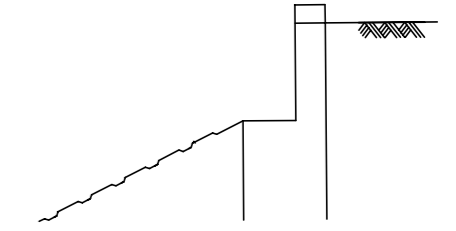
下流側



正面図



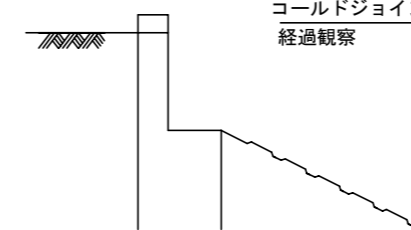
上流側



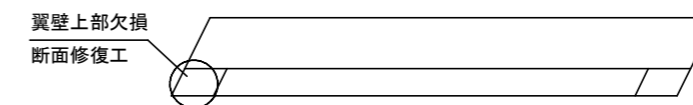
A2橋台

正面図

上流側



平面図



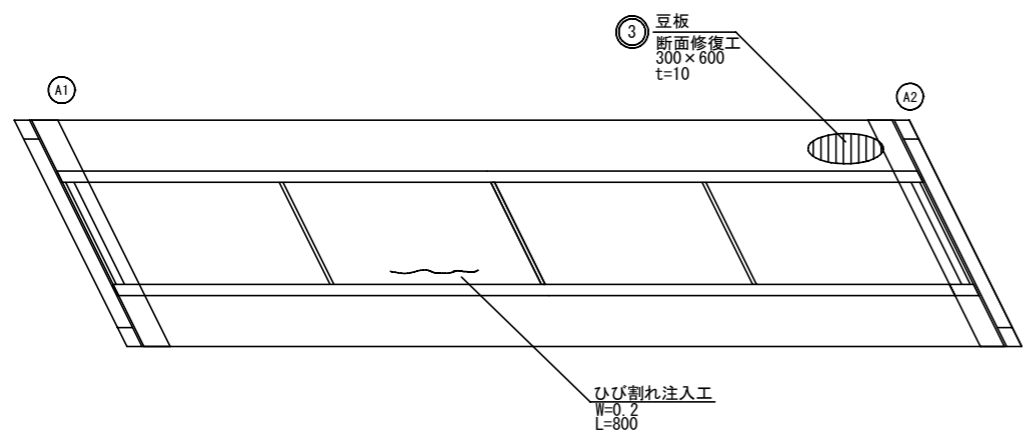
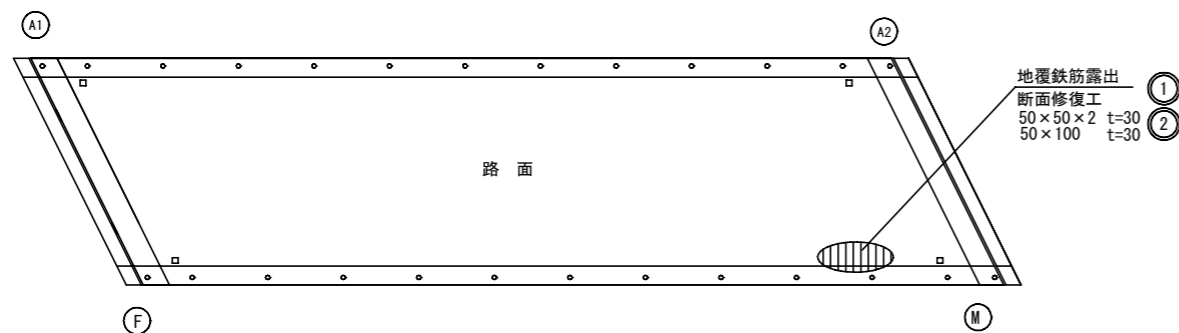
xsm1, q1: ※ 施工前に損傷状況を確認し必要に応じ修正すること。

s*: ※ 桁、排水管、支承全て塗り替えを行う

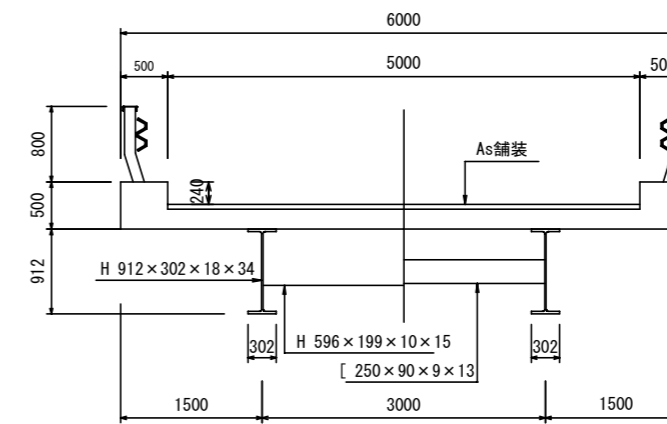
施工年度	平成29年度
工事名	28・29合併国補・表橋 橋梁補修工事
路線名	市道B102号線
工事箇所	大字宇治会字宇治会3094番地先
図面種別	表橋 補修一般図
縮尺	図示
図面番号	全9葉の内3号(3/9)
内容表示	

表橋 コンクリート補修工図

平面図 S=1:100



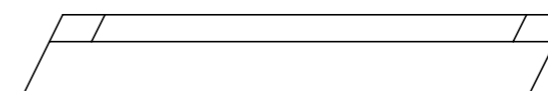
上部工断面図 S=1:40



下部工図 S=1:50

A1橋台

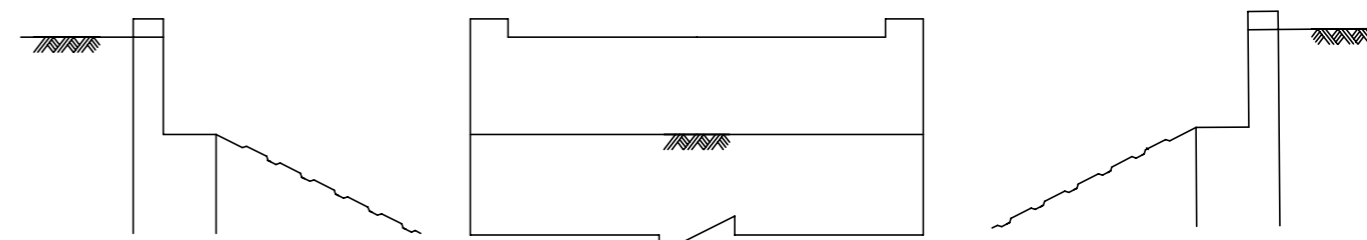
平面図



下流側

正面図

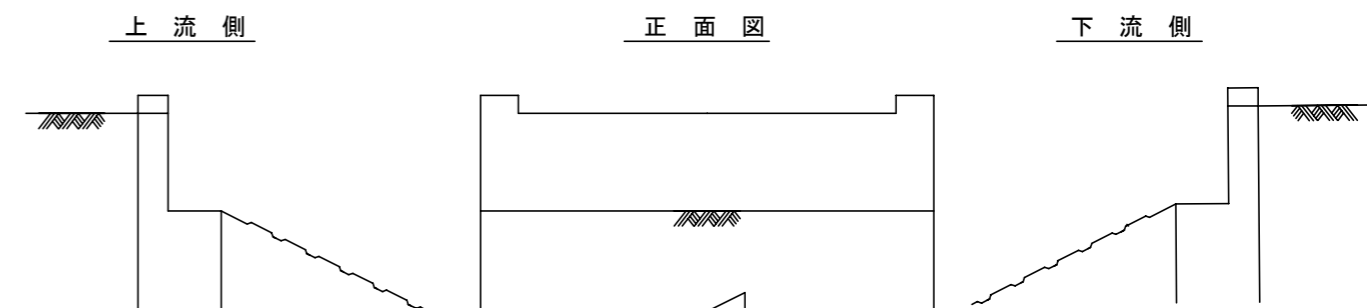
上流側



A2橋台

正面図

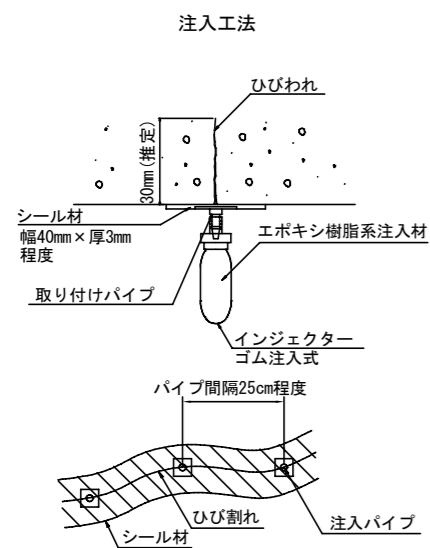
下流側



平面図

④ 翼壁上部欠損
断面修復工
100x200x100
三角錐形状

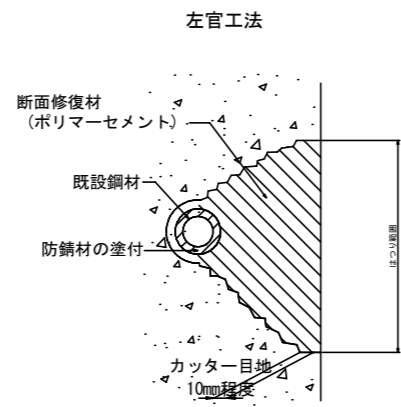
ひびわれ補修工概要図



<施工手順>

- 開始
- ひび割れ調査
- ひび割れ部の清掃
- 注入用パイプセット
- ひび割れ面をシール
- 材料注入
- パイプを撤去
- シール材撤去
- 終了

断面修復概要図



<施工手順>

- 開始
- はく離・うき部の除去
- 鉄筋除去防錆処理
- プライマー工
- ポリマーセメントコテ仕上げ
- 養生
- 終了

※ 施工前に損傷状況を確認し必要に応じ修正すること。

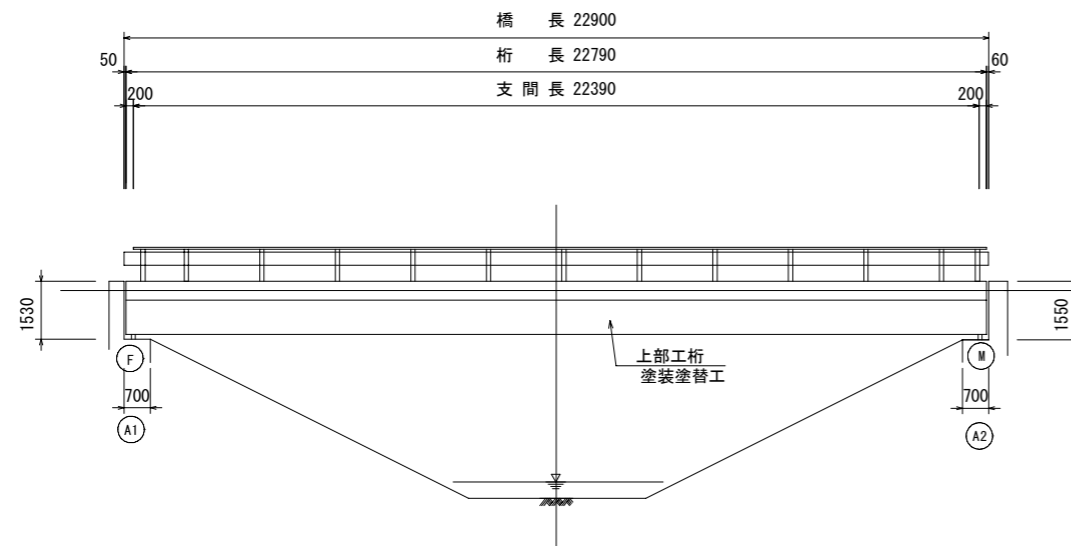
xsm1, q1: ※ 二重丸内の数値は、数量計算書の番号と同じである。

sml: ※ 桁、排水管、支承全て塗り替えを行う

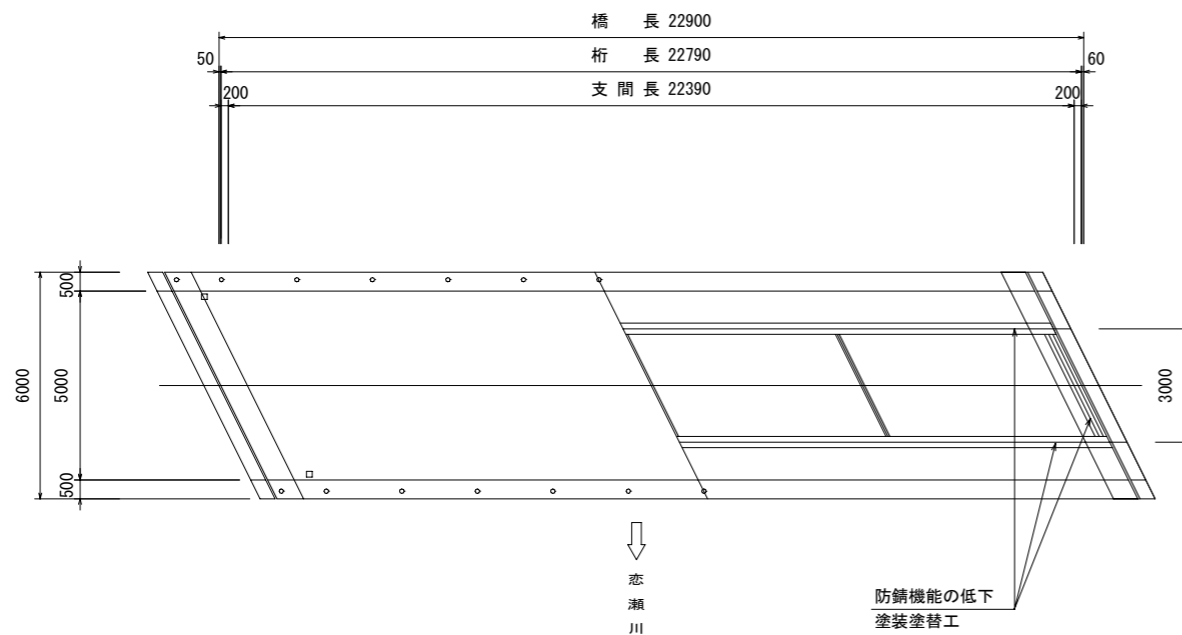
施工年度	平成29年度
工事名	28・29合併国補・表橋 橋梁補修工事
路線名	市道B102号線
工事箇所	大字宇治会字宇治会3094番地先
図面種別	表橋 コンクリート補修工図
縮尺	図示
図面番号	全9葉の内4号(4/9)
内容表示	

表橋 鋼橋塗装工図

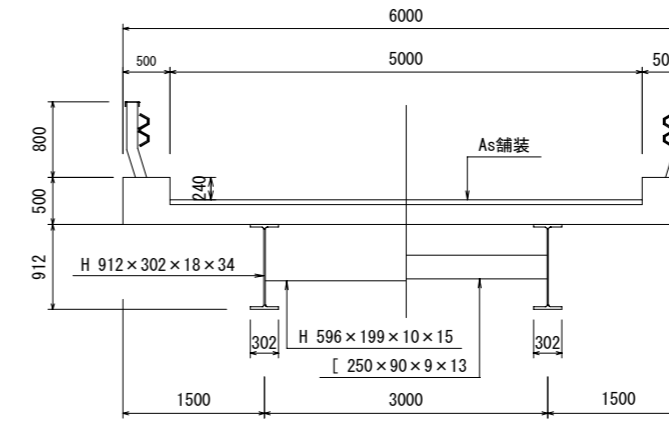
側面図 S=1:100



平面図 S=1:100

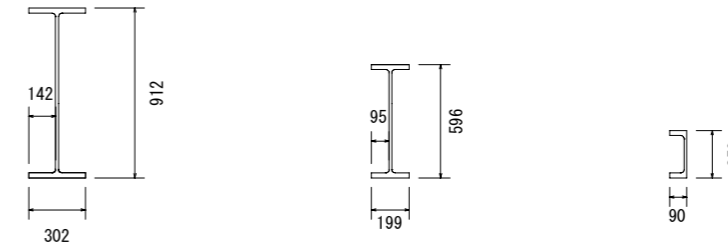


上部工断面図 S=1:40



桁断面図 S=1:20

主桁 端横桁 分配横桁 中間横桁



数量(1部材分)

寸法(m)	面積(m ²)	箇所数	合計(m ²)
0.302?22.790	6.883	1	6.88
0.142?22.790	3.236	4	12.94
0.912?22.790	20.784	2	41.57
Σ			61.39

数量(1部材分)

寸法(m)	面積(m ²)	箇所数	合計(m ²)
0.090?3.338	0.300	4	1.20
0.250?3.338	0.835	2	1.67
Σ			2.87

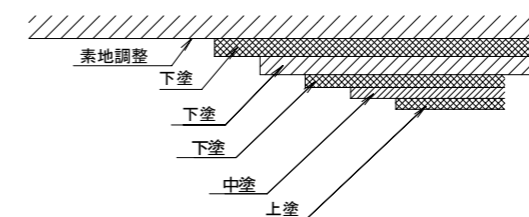
数量(1部材分)

寸法(m)	面積(m ²)	箇所数	合計(m ²)
0.199?3.338	0.664	1	0.66
0.095?3.338	0.317	4	1.27
0.596?3.338	1.989	2	3.98
Σ			5.91

合計

	面積(m ²)	箇所数	合計(m ²)
主桁	61.39	2	122.8
端・分配横桁	5.91	3	17.7
中間横桁	2.87	2	5.7
Σ			146.2

塗替え塗装概念図 RC-Ⅲ(はけ)

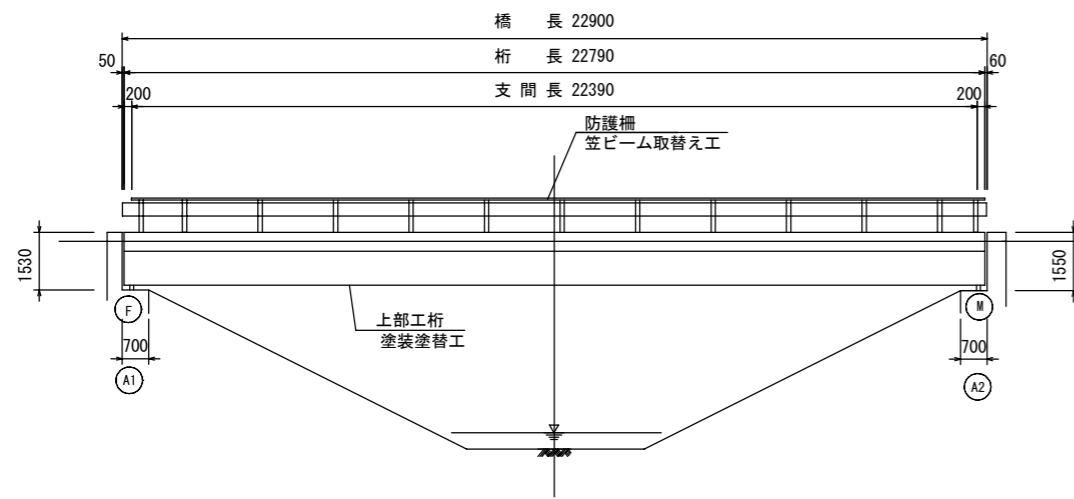


施工年度	平成29年度
工事名	28・29合併国補・表橋 橋梁補修工事
路線名	市道B102号線
工事箇所	大字宇治会宇宇治会3094番地先
図面種別	表橋 鋼橋塗装工図
縮尺	図示
図面番号	全9葉の内5号(5/9)
内容表示	

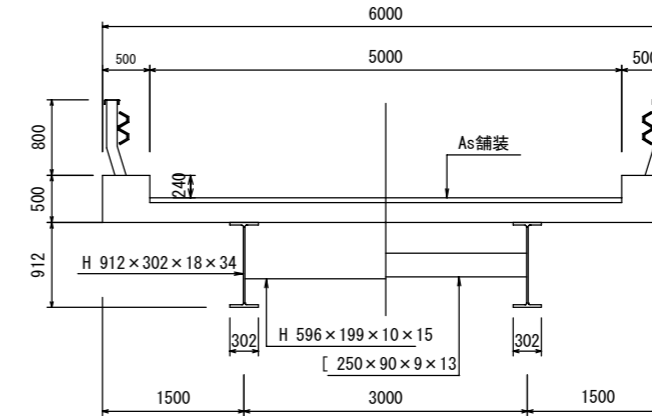
※既存の成果及び計測により作図している。
一部推定であるため、使用前に調査すること。

表橋 付属物補修図

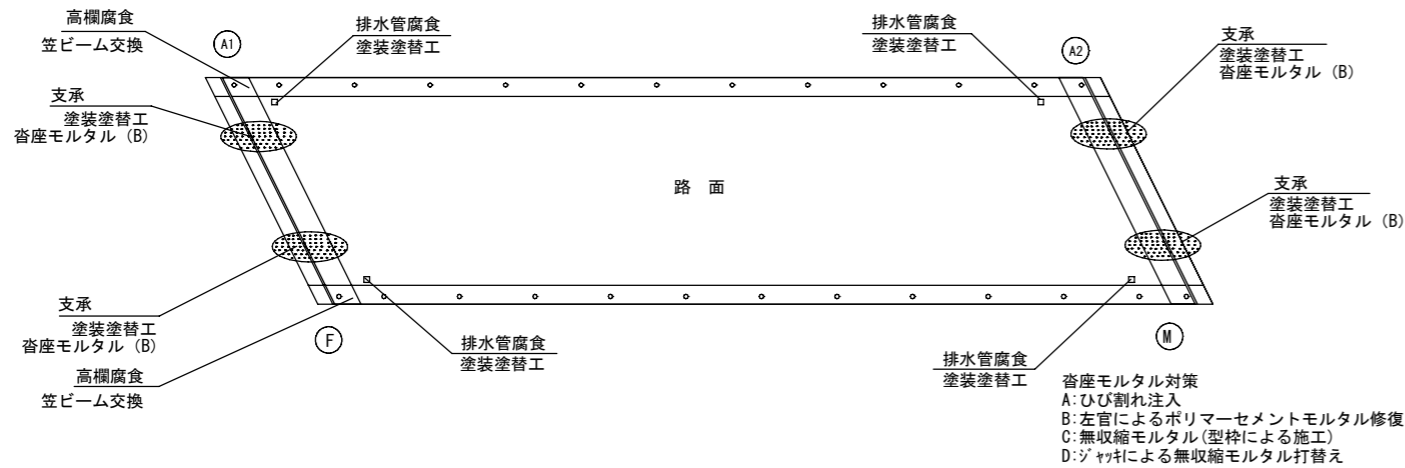
側面図 S=1:100



上部工断面図 S=1:40



平面図 S=1:100



支承部数量

3種ケレンC

	支承高さ(mm)	塗装面積(m ²)※	箇所数	合計(m ²)
固定支承	82	0.27	2	0.54
可動支承	82	0.25	2	0.50
			Σ	1.04

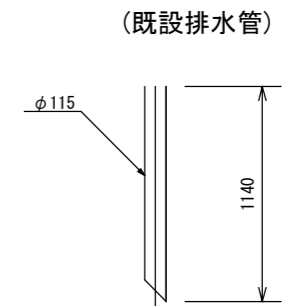
※デザインデータブックより

左官工(沓座モルタル:対策B)

	寸法(m)	高さ(m)	体積(m ³)
A1G1	0.275×0.200	0.030	0.002
A1G2	0.275×0.200	0.030	0.002
A2G1	0.275×0.200	0.030	0.002
A2G2	0.275×0.200	0.030	0.002
		Σ	0.008

注:上記のモルタル寸法は、数量計上のためのものであり、モルタル寸法の計測値は、550×400×30である。

排水管詳細図 S=1:20



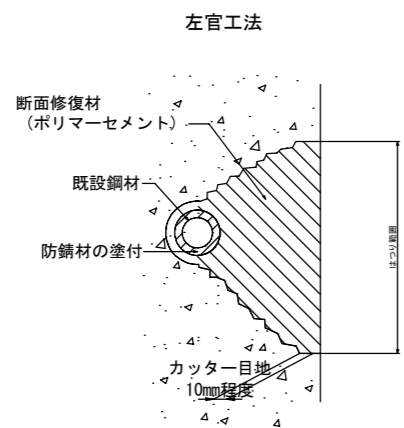
排水管部分取替え数量

	長さ(m)	円周(m)	面積(m ²)	箇所数	合計
塗替え部	1.140	0.361	0.412	4	1.6 m ²

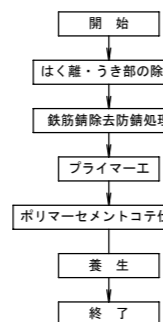
高欄取替え工数量

	長さ(m)	箇所数	数量(m)
笠ビーム	27.790	2	55.6

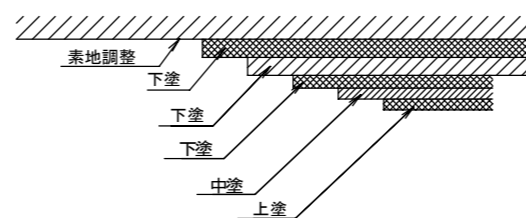
断面修復概要図



<施工手順>



塗替え塗装概念図 RC-Ⅲ(はけ)



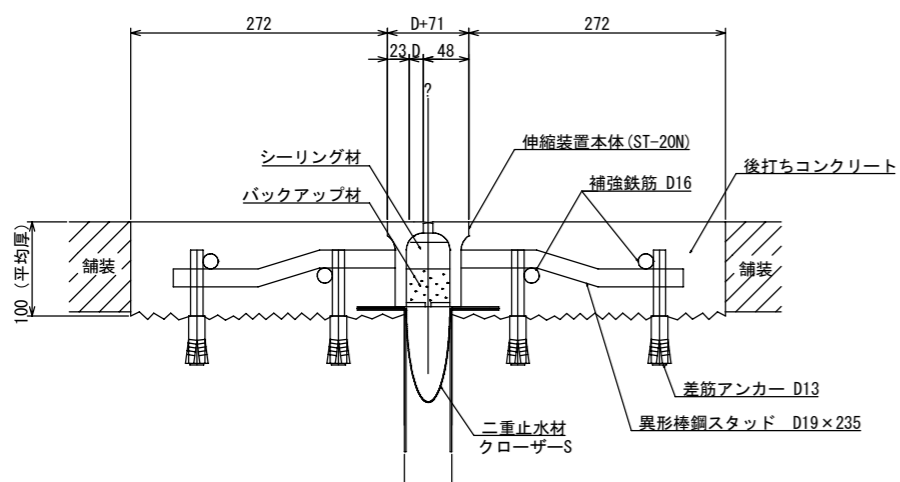
xsm1, q1: ※ 施工前に損傷状況を確認し必要に応じ修正すること。

sm1.5: ※ 桁、排水管、支承全て塗り替えを行う

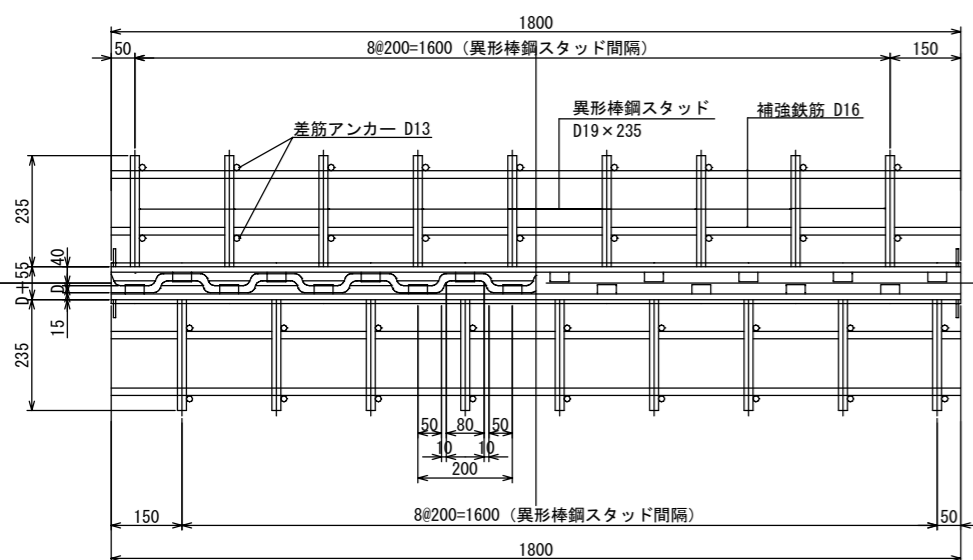
施工年度	平成29年度
工事名	28・29合併国補・表橋 橋梁補修工事
路線名	市道B102号線
工事箇所	大字宇治会字宇治会3094番地先
図面種別	表橋 付属物補修図
縮尺	図示
図面番号	全9葉の内6号(6/9)
内容表示	

表橋 伸縮装置補修図

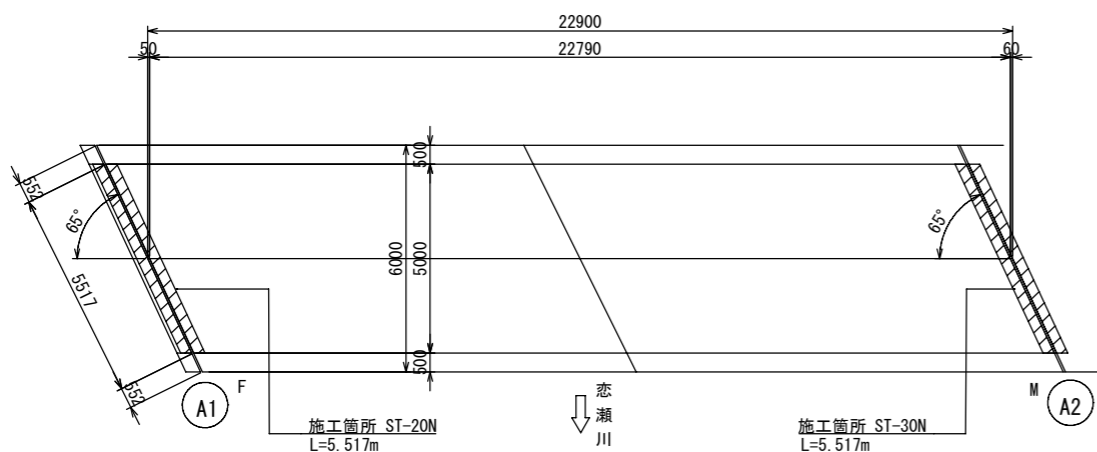
伸縮装置断面図 S=1:4
伸縮量20mmタイプ (ST-20N)



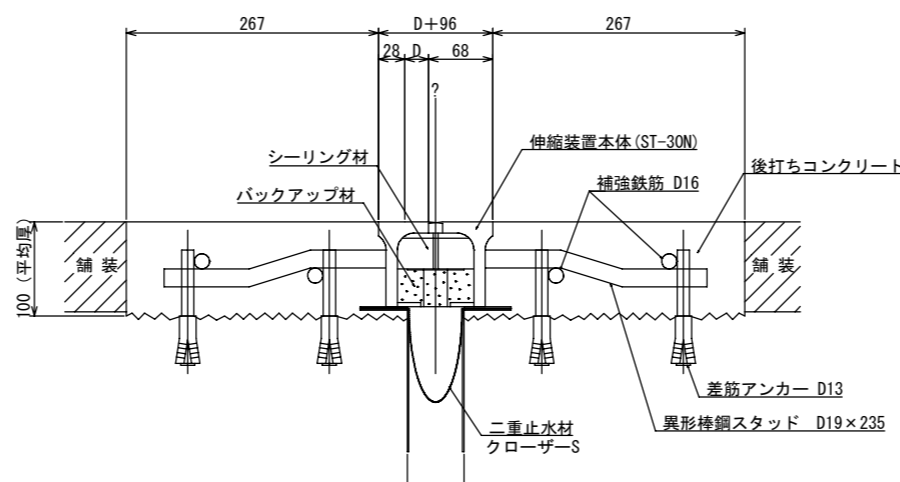
伸縮装置平面図 S=1:8



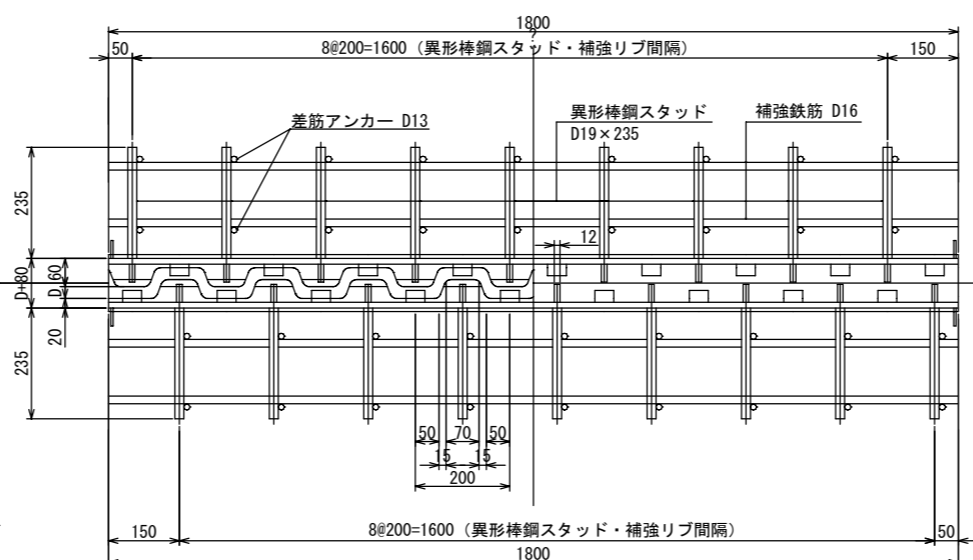
位置図 S=1:100



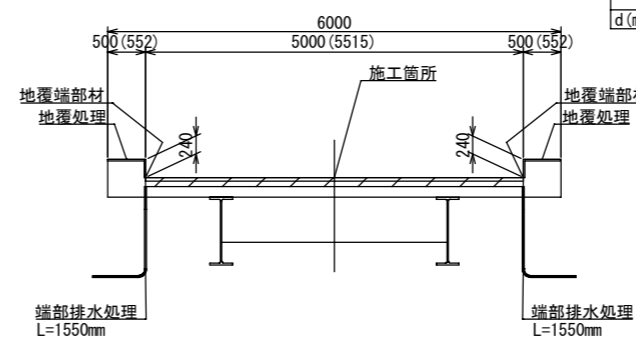
伸縮装置断面図 S=1:4
伸縮量30mmタイプ (ST-30N)



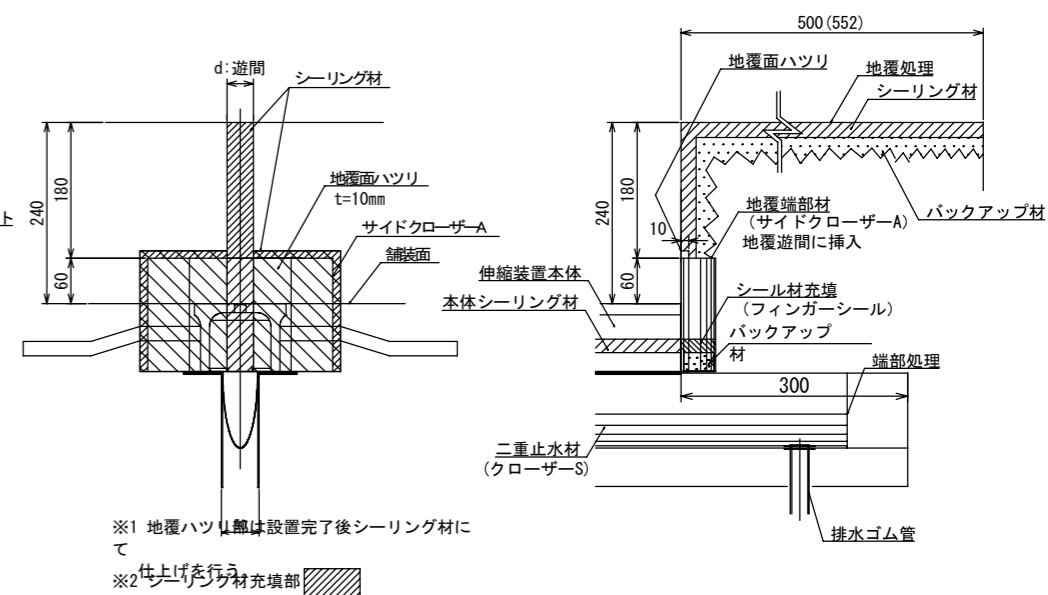
伸縮装置平面図 S=1:8



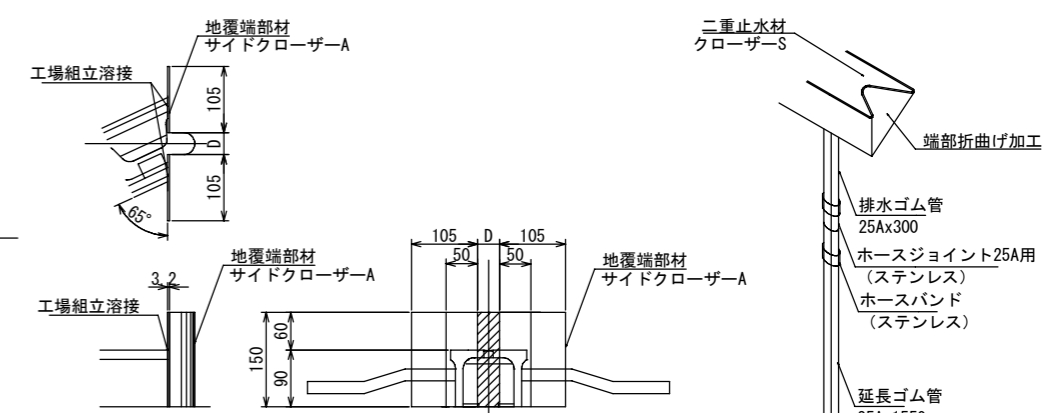
断面図 S=1:50



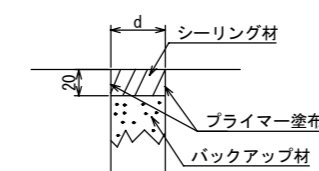
地覆端部処理詳細図 S=1:5



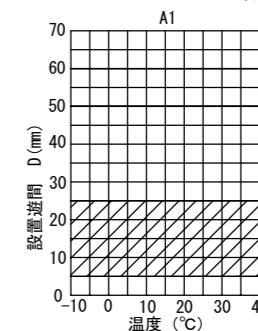
地覆端部材組立図 S=1:6



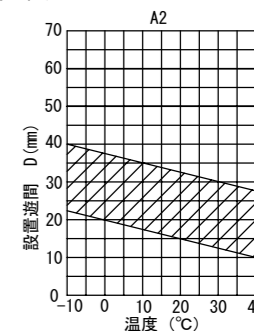
地覆処理詳細図



	A1	A2
d (mm)	50	60



設置表

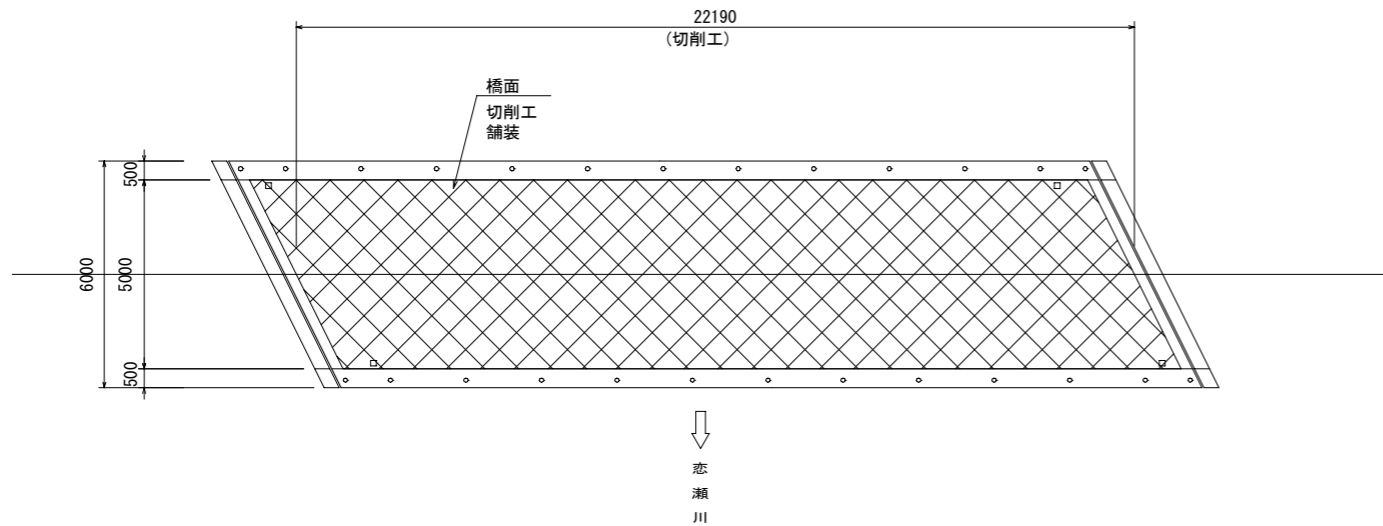


施工年度	平成29年度
工事名	28・29合併国補・表橋 橋梁補修工事
路線名	市道B102号線
工事箇所	大字宇治会宇治会3094番地先
図面種別	表橋 伸縮装置補修図
縮尺	図示
図面番号	全9葉の内7号(7/9)
内容表示	

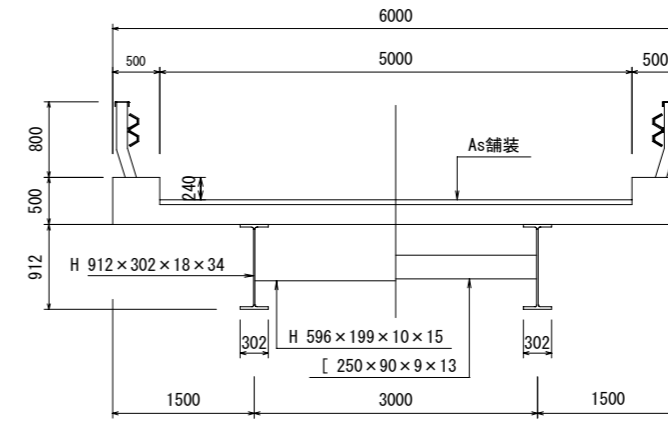
- 注記)
1. 詳細寸法は、現地実測の上決定する。
2. 既設伸縮装置は、鋼製スライドジョイントである。
3. 寸法線 () 内は斜角での寸法を表す。

表橋 橋面防水工図

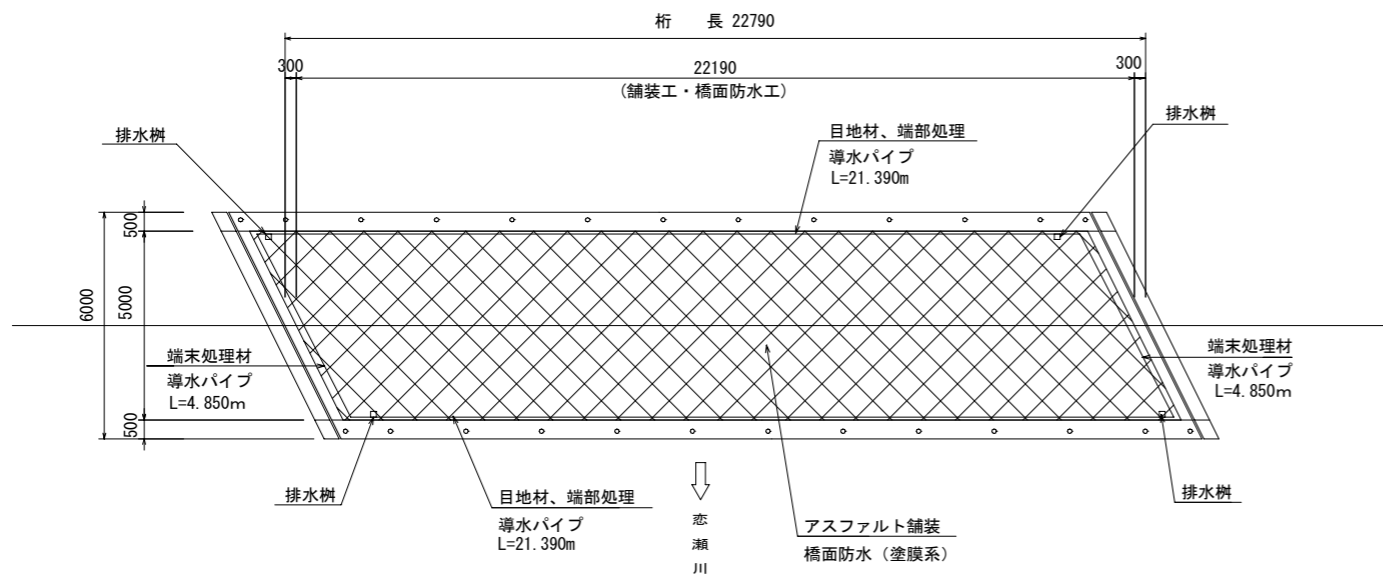
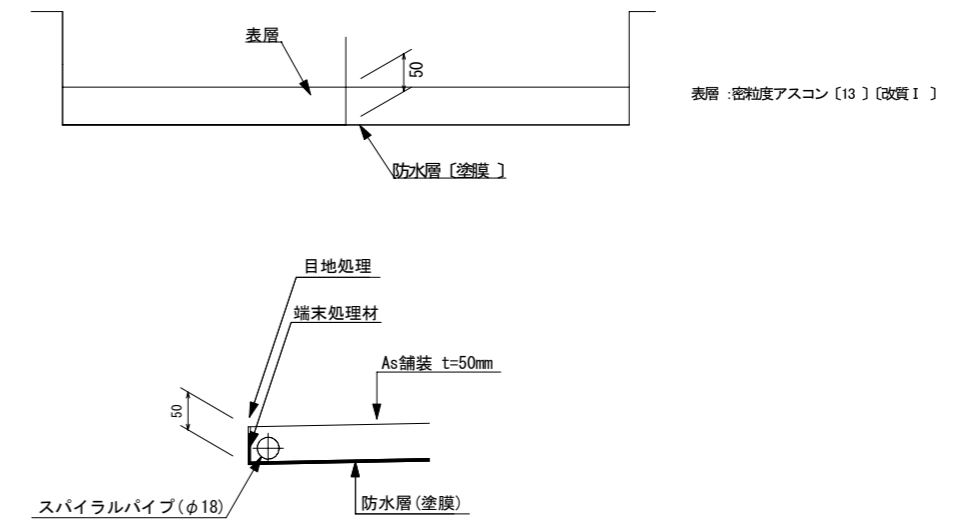
平面図 S=1:100



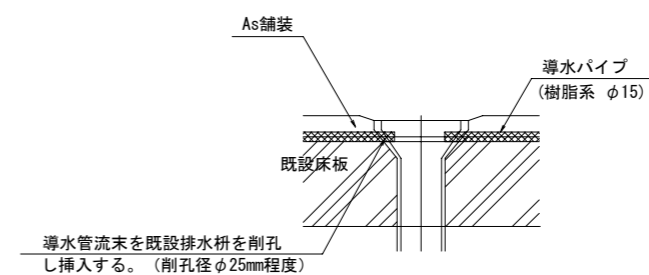
上部工断面図 S=1:40



舗装詳細図 S=1:50



導水パイプと排水樹との接合 S=1:8

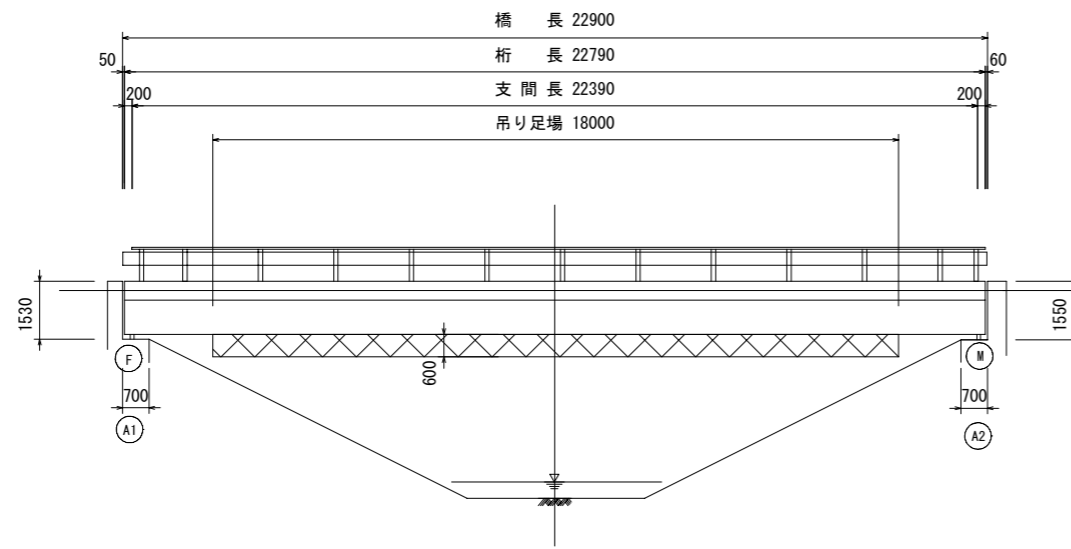


※既存の成果及び計測により作図している。
一部推定であるため、使用前に調査すること。

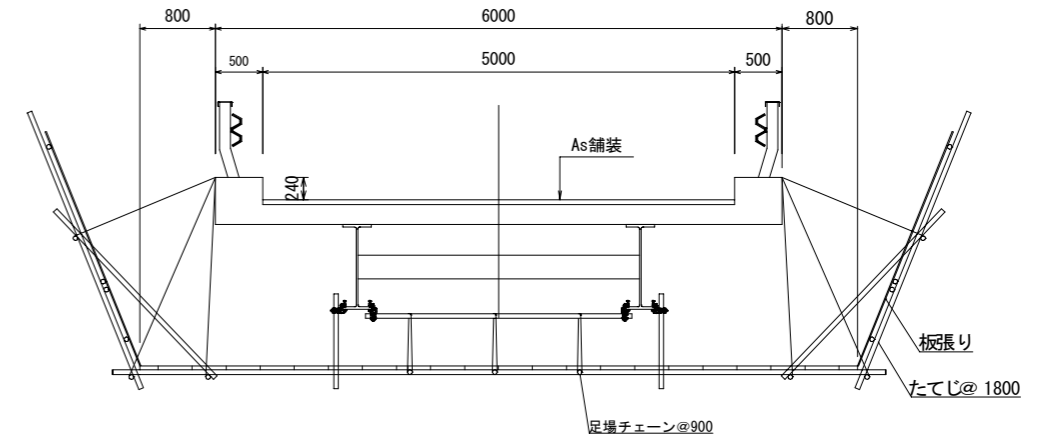
施工年度	平成29年度
工事名	28・29合併国補・表橋 橋梁補修工事
路線名	市道B102号線
工事箇所	大字宇治会宇宇治会3094番地先
図面種別	表橋 橋面防水工図
縮尺	図示
図面番号	全9葉の内8号(8/9)
内容表示	

表橋 仮設足場図(参考図)

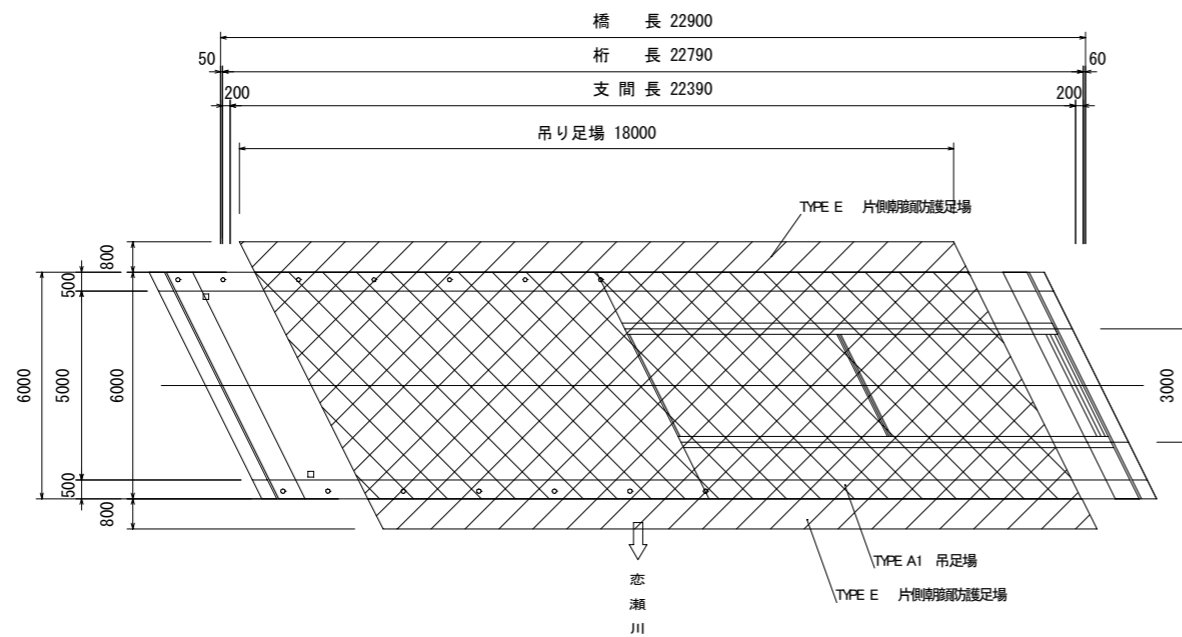
側面図 S=1:100



上部工断面図 S=1:40



平面図 S=1:100



吊り足場	TYPEA1	108.0m ²
	TYPE E	28.8m ²

※既存の成果及び計測により作図している。
一部推定であるため、使用前に調査すること。

施工年度	平成29年度
工事名	28・29合併国補・表橋 橋梁補修工事
路線名	市道B102号線
工事箇所	大字宇治会字宇治会3094番地先
図面種別	表橋 仮設足場図(参考)
縮尺	図示
図面番号	全9葉の内9号(9/9)
内容表示	